



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | (資料) 阿部永「1968年北海道大学中央ネパール生物調査隊」調査手帳                                               |
| Author(s)        | 阿部, 永; 加藤, 克                                                                      |
| Citation         | 北大植物園研究紀要, 14, 53-85                                                              |
| Issue Date       | 2014-12-22                                                                        |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/57718">https://hdl.handle.net/2115/57718</a> |
| Type             | departmental bulletin paper                                                       |
| File Information | BBG14_003.pdf                                                                     |



## (資料) 阿部永「1968 年北海道大学中央ネパール生物調査隊」 調査手帳

阿部 永<sup>i</sup>・加藤 克<sup>ii</sup>

以下に紹介する資料は、阿部永（1933- ，元北海道大学教授、元北海道大学農学部博物館館長）が 1968 年北海道大学中央ネパール生物調査の際に記録した手帳である。手帳の記載には、「阿部永博士寄贈 哺乳類標本目録」（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 2013）に収録されている阿部採集標本にかかわる情報が含まれており、目録に掲載できなかった情報を提供することを意図し、資料紹介という形で報告することとした。

本資料は、上述した哺乳類標本の周辺情報としてだけでなく、鳥類、昆虫などの観察記録情報も含んでいることから、生物学研究の材料としての資料的価値は高い。また、北海道大学における研究・調査活動の歴史を理解する上でも重要な資料である。同時に当時の交通事情や現地の様子など歴史や文化面における記録としても意味のあるものと考えられる。

なお、資料中には現代的観点からすれば差別的な表現と受け止められかねない記載や個人的な情報も含まれているが、記録としての価値を優先してそのままの形で表記している。

資料の翻刻にあたっては、阿部が所蔵資料（現在は北海道大学植物園・博物館所蔵）に基づいて読解・入力を行い、加藤が資料に記載されている採集情報と標本情報とを照合し、阿部と確認しつつ注記を加えた。脚注にある【 】で括った数字は、北海道大学植物園・博物館の標本番号である。（加藤）

---

<sup>i</sup> 小樽市桂岡町 26-17

<sup>ii</sup> 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園

1968 年北海道大学中央ネパール生物調査隊  
The Hokkaido University Scientific Expedition to Nepal Himalaya 1968

旅程＜補記＞

(出国 - Kathmandu) : Mar13:Sapporo-Tokyo; 14:Tokyo; 15:Tokyo-Osaka-Tobata; 16:Tobata-Kobe; 17:Kobe-Tokushima;  
18:Tokushima-Kobe; 19:Osaka-Tokyo; 20-21:Tokyo; 22:Tokyo-Kawasaki (ship) ; 23-Apr6:Ship; 7:Goa (India) ; 8:Goa-  
Bombay; 9- 10:Bombay; 11-13:Bombay-Mughal Sarai-Raxaul (Nepal) ; 14:Raxaul-Birganj-Kathmandu; 15-17:Kathmandu;  
18:Kathmandu-Godavari; 19:Godavari; 20:Godavari-Kathmandu; 21:Kathmandu; 22-23:Kathmandu (Balaju) ;  
24:Kathmandu;

(Pokhara-Tukuche 旅行) Apr 25:Kathmandu-Pokhara; 26:Pokhara; 27:Pokhara-Swingket; 28: Swingket- Modi Khola;  
29:Modi Khola; 30:Modi Khola-Ulleri; May1:Ulleri-Gorapani; 2:Gorapani-Tatopani; 3:Tatopani-Ghasa; 4:Ghasa; 5:Ghasa-  
Tukuche; 6:Tukuche; 7:Tukuche-Thak Larjung; 8:Thak Larjung-Ghasa; 9:Ghasa-Tatopani; 10:Tatopani-Chittra; 11: Chittra-  
Ulleri; 12:Ulleri-Biratanti; 13:Biratanti; 14: Biratanti-Swinket; 15:Swinket; 16:Swinket-Pokhara; 17:Pokhara; 18:Pokhara-  
Rupak; 19-20:Rupak; 21:Rupak- Pokhara; 22:Pokhara; 23:Pokhara-Kathmandu; 24-26:Kathmandu;

(Trisuli-Gosainkund-Patibanjan 旅行) : 27:Kathmandu-Trisuli; 28:Trisuli-Ramche; 29:Ramche-Bokajhunda;  
30:Bokajhunda-Dunche; 31:Dunche; Jun 1: Dunche-Shin Gomba; 2:Shin Gomba; 3:Shin Gomba-Gosainkund; 4:Gosainkund;  
5:Gosainkund-Tale Pati; 6:Tale Pati; 7:Tale Pati-Kurumsan; 8:Kurumsan; 9:Kurumsan-Patibanjan; 10:Patibanjan-Kathmandu;  
11-14:Kathmandu; 15:Kathmandu-Godavari; 16:Godavari; 17:Godavari-Kathmandu; 18-23:Kathmandu;

(Adavar 旅行) : 24 : Kathmandu-Adabar; 25-27:Adabar; 28:Adabar-Kathmandu; 29-Jul 1:Kathmandu; 2-4:Kathmandu  
(Balaju) ;

(Kuinibisona 旅行) : 5 : Kathmandu-Kuinibisona; 6:Kuinibisona; 7:Kuinibisona-Kathmandu;

(Kathmandu- 帰国) : 8-13:Kathmandu; 14:Kathmandu-Birganj-Raxaul; 15-16:Raxaul-Culcutta; 17-19:Calcutta;  
20-23:Calcutta- Waltair-Madras; 24-27:Madras-Waltair; 28-29:Waltair (Ship) ; 30-Aug 12:Waltair (Ship) -Kimitsu; 13:  
Kimitsu-Sapporo.

(阿部日記)

3 月 13 日 : 札幌 11 時 40 分発特急に乗車。多数の見送りを受ける。一行は久万田、後山、阿部の 3 人第二次隊。  
先発隊の時に比べ盛大な見送りで、道新のカメラマンのライトをあびる。

14 日 : 午前 9 時 25 分上野着、まず道新支社を訪れ、荷物を預ける。船会社の新和海運へ挨拶に行く。日鉱丸の  
川崎着は 20 日で 24 日出航という予定をきく。新和海運では戸畑に送った 13 個の荷物の件でさんざん嫌みを言われ  
る。手で持てる範囲、すなわちリュック 1 個とその他少々の荷物という約束だと言うが、我々の理解では 1 個の荷  
物の大きさが人の手だけで運べる範囲の物ということだったので、このようなことになったものと思う。東京泊。

15 日 : 新幹線にて大阪に行き神戸で弟、明士家に立ち寄り 9 : 36 急行で戸畑に向かう (久万田名古屋泊まり)

16 日 : 朝、戸畑着。直ちに新和海運戸畑出張所に行き別送してあった荷物の一部を受け取る。最初は久万田、渡  
辺組の鉄洋丸と同様、日鉱丸も戸畑発と言うことになっていたので手荷物の一部を戸畑宛に送ったが、札幌出発直  
前の電話により日鉱丸は川崎着になったことを知り、急遽戸畑まで荷物受け取りに行ったのである。博多まで行き  
再び夜行列車に乗って神戸へ向かう。

17 日 : 朝 9 : 30 久万田と神戸駅で落ち合い、同時に来た明士と 3 人で徳島に行く。徳島川島の阿部家泊まり。水  
中翼船 1 時間半の旅は快適、天気快晴寒し。

18 日 : 夜、川島を発ち、小松島発 11 : 30 の関西汽船にて神戸へ向かう。

19 日 : 大阪—東京 . 6 : 00am 大阪発 (久万田は大阪泊) 新幹線にて阿部は東京に行く、10 : 10 東京着。往路、  
同行する後山さんと麻生のネパール大使館に行く。先日頼まれていた編み機をネパールまで運ぶ件で訪れたが Shah

大使不在。宅へ伺って実物を見たが意外に大きくかつ重いので、マダムには後で連絡すると言って帰る。また大使館の日本人書記にはどうも持てそうにないことを伝える。

20日：東京—川崎—東京。川崎に日鉱丸が到着するので10時港に行く。1時間ほど待って、この船でネパールから帰ってきた川道武男君を迎える。静岡より弟、裕が会いに来てくれたので東京まで一緒に行き、飯を食う。夜、川道家に泊めてもらい彼より最新のネパール・インドに関する情報を受ける。心配していたCustomの件も、リュックとその他の小さな荷物を持ったツーリストの場合はあまり問題が無いことを聞き安心する。カトマンズ周辺では北はゴサインクンドの付近が調査地として良いことをきく。2週間ほどかければ十分。カワウソなどをしばしば見かけたという。

船は24日出航、行き先はゴアからマドラスへ変更という。近くなって喜んだ。

21日：東京。後山さんと再びネパール大使館へ行きShahに会う。編み機は持って行けないと言うことを書記から聞いていたためかShahは不機嫌そうな顔をしている。最初あの編み機は重すぎると切り出した途端に猛烈に喋りはじめ、先日は持って行ってくれるといったのではないかという、インドその他ではポーターに担がせれば良いし、その代金は払うという。結局引き受けることにし、ネパールまで頼まれて持って行くのだという証明書を書いてもらう。午後海運会社に電話したら、22日出航という。先日は24日出航といていたのがまた変更。

22日(金)：東京—川崎—出航。朝10時東海運に着きカスタム、出国手続きを終え昼近くに乗船。行き先はやはりゴアであるという。今朝、戸畑の久万田宛にマドラス行きの電報を打ったばかりであるのに再び電報を打って行き先変更を知らせる。全く変更の多いのにはうんざり。昼食は船の食堂で、なかなか良い食事である。pm5:00川崎、日本鋼管扇町工場埠頭を出港。船室は約8畳の広さで二つのベッドがあり、以前の青函連絡船の1等寝台よりも良い。

23(土)：船中。朝晴れ、昨夜は船がひどく揺れたそうであるが夜8時頃から今朝5時まで熟睡。船の揺れたことなど全く知らなかった。朝8時朝食、甲板にて1羽のキセキレイを見る。多分名古屋付近の沖合だろう。一路南下を続ける。少し船の揺れるときがあるが船酔いはしない。昼頃から曇り空となる。12時昼食。一日中ぶらぶらしたりベッドに横になったり、全く何もしないまま過ごした。5時夕食。一日中何もしないのであまり食欲はない。しかし食事はよく、札幌にいますとときと変わらないかまたはそれよりも良いくらい。6時に時計の針を18分遅らせるよう通告あり。船内の回覧雑誌4冊がまわってくる。夕方四国沖約100マイルを通過。

24(日)：船中。朝6時起床、船上でツバメ2羽をみる。洋上で船とすれ違う。午前中は荷物のリストづくりに費やす。快晴に近い天気できわめて快適。今日はほとんど一日リスト作りで終わる。夜の食事は鳥の水炊きで日本酒がつく。また夜9時にはケーキと紅茶が出る。全く食事が良いので乗船前に川崎で買い込んだ菓子類は全く手がつけられないままである。6時に時計の針を18分遅らせる。8時頃奄美大島沖を通過。

25(月)：船中。曇り。10時頃沖縄沖を通過。テレビ、ラジオがよくはいる。一日中海はよくないで、ほとんど揺れない。昼は五目麺、夜は生寿司。今日はほとんど何もしないでごろごろしていたので腹がすかなくて困る。夕食後薬品類のリストをつくる。

26(火)：船中。曇り。8時台湾沖を通過。一日中読書だけで過ごしたが、夕方6時半頃台湾南端横のフィリピン領Batan群島のBatan島とItbaya島の間を通過。しばらくぶりに島を見て喜ぶ。ブリッジに上がって世界各地の興味深い話を聞く。船乗り達は方々に行くため話題は豊富で大変面白い。

27(水)：船中。晴れ、フィリピン沖に入り、さすがに空気は暖かく半袖シャツ一枚で十分である。海上ではトビウオが盛んに飛ぶ。14:30-15:30までトビウオの写真を撮る。ツバメ1羽南に向かって飛ぶ。気温30℃で熱帯に入りつつあることがわかる。夜はすき焼きでお酒が付き良い機嫌となる。我々も持参のサントリー特級を出し、みんなに喜ばれる。今夜は快晴のため星がきれいであろう。

28(木)：船中。快晴。南風強し。一日中無為に過ごす。夜は星が満天に輝ききれい。ただし真っ黒い夜である。

29(金)：船中。快晴。南風強し。今日は一日荷物のリストのタイピングに費やした。夕方は風もおさまり、夕日がきれいだった。夕方ベトナム南端沖を通過。ブリッジで見張りをしている人によると、ベトナムに近づいた27日午前には米軍ジェット機が船すれすれに旋回していったという。この付近を通過するときには必ず来るという。昼間は室内で気温30℃、一日中ランニングシャツ一枚で過ごす。本日からベッドにはゴザを敷いてもらう。

30(土)：船中。快晴。風もおさまり海は穏やか。行き会う船の数が増える。午前中荷物のリストタイピングを完了。気温29.5℃(正午)。全行程約5000マイルの半分を終わる。夜はべた風で夕日がきれい。この日鉱丸は船足が遅く(時速25km位)今日一日で多くの船が追い越していった。夕方海上でウミヘビ2匹をみる。

31(日)：船中。薄曇り。朝6時室内温度29℃。7時半頃アマサギ1羽が船をつけてくるのを観察。11:50

Singapore Strait 入り口の Horsburgh 灯台通過、イルカが盛んに現れる。これより Singapore Strait に入る。無風、海面は鏡のようになめらか。正午太陽は真上にあり、自分の影がほとんどできない。太陽光線は強いが海上で少し風があるのですさほど暑さを感じない。2 時過ぎに Singapore 沖を通過。大きなビルの建ち並ぶシンガポールの町並みが遠望できる。多数の大型船が港付近に停泊中で、オイルタンクなども望見できる。付近にある小島にはヤシの林があり、木の葉隠れに別荘らしい瀟洒な建物が多い。家の周りには刈り込まれたローンがある。シンガポールは自由港であるため街の繁栄は大したもの、立ち並ぶビルは東京のものより大きいようである。シンガポール海峡が終わるところの小島(3 時通過)には灯台があり、灯台の周りにはヤシの木立が見える。ここを通過して西に曲がるといよいよ Malacca Strait である。シンガポール沖には大型船の他、釣り船である小型のモーターボート、ヨットなども散見された。4 時過ぎアジア大陸の最南端と言われるマレー半島南端沖を通過する。マラッカ海峡の海の水は緑色で、南シナ海の青色とは全く異なっている。夕食は豚の焼き肉で、ウイスキーをのむ。良い機嫌。6 時室内の気温 31.5℃。

4 月 1 日(月) 船中・晴れ(マラリア予防薬 Resochin 服用日) 朝 4 時頃 Kuala Lumpur 沖を通過。その後マラッカ海峡をスマトラに沿って西行。9 時室内 30℃。我々の部室は 2 階正面にある State room (特別寝室) で最も涼しいところであり、我々の部屋の前にある便所では 35℃の暑さである。一日中ほとんど無為に過ごした。少し読書(英会話)をしたのみ。マラッカ海峡は貨物船、タンカーなどの往来が激しい。夕食後 Resochin 2 錠のむ。

2 (火): 船中・薄曇り。昼頃にはマラッカ海峡をでてインド洋に入った。しかしインド洋にはいつてからは大きなうねりがでてきたため船は左右に揺れはじめ、特に夜になってかなりゆれるようになった。今日は松本清張の推理小説や週刊誌を読んだだけで、ほとんど何もしなかった。船の生活が 10 日以上も続いたので少々船の揺れは気にならなくなった。夜 12 時頃で室内 31℃。夕食後再び Resochin 2 錠。

3 (水): 船中・晴れ。インド洋の真ん中であいかわらずうねりがある。午後甲板でにわかづくりの床屋が開かれ、後山さんと共に散髪をしてもらう。夜、田中亮著「ネズミの生態」を読み始める。Resochin のせいで胃がもたれ食欲不振。

4 (木): 船中・晴れ、昨夜はスコールがあり朝はかなり涼しい。それでも室内は 29℃。一日読書で過ごす。3 時頃セイロンの近くでタンカー明扇丸 14 万トンが我々の船のすぐ横を追い越してゆく。本船のスピードは 14mile/h であるが明扇丸は 17mile/h 位だろうという。ペルシャ湾に行くのであろう。夕方から夜中にかけてセイロンの南を通過。夜コロンボ行きのフランス客船と出会う。互いに信号で挨拶。船員の多くの人たちからインドでのいろいろな事情を聞いてきたが、なかなか大変なところらしい。湾に船が着いた場合は盗難が激しいので少しも油断ができないという。毎日誰かが時計その他をとられているという。丸窓を開けておけば棒をもってきて洗濯物などもとってゆくし、税関吏さえ全く油断がないという。それに税関吏は何かと故意に難癖をつけコミッションを公然と要求するという。上陸すれば物乞いが殺到し、いつまでも後をつけてきて離れない。全く相手にしないことが最も良い。Resochin のせいで食欲不振。この薬はかなり胃腸に害があるものと思われる。このところ毎日夕食時には On the rock がつき良い機嫌となる。

5 (金): 船中・晴れ。西風強し、30℃。夕方インド半島南端沖を通過、これから北上。一日中読書その他。インド時間

6 (土): 船中・晴れ、風はおさまり海は穏やか。いよいよインド半島西岸を北上。イルカの群れに出会う。インドに近づくと海の色まで汚れた色をしている。陸が見えないほど離れているのに海水はブルーでもなくグリーンでもない汚れた色をしている。昨日あたりからようやく再び胃の調子が良くなり食欲も正常に戻る。大陸に近づくと、やはり暑く毎日パンツ一枚で過ごす日が多くなる。夕方 6 時過ぎユリカモメ夏羽に似た鳥 2 羽が船の後をずっとつけてくる。いよいよ航海最後の晚餐。今日もまたオンザロックで良い機嫌になる。今日はやや涼しい感じがするが気温はさほど変わらないだろう。夜は 11 時頃までかけてミンクの Aberrant form についての報告書原稿を書き上げる。

7 (日): 船中—Goa (Marmugao)・晴れ、7 時半、インドが近くに見え、10 時ゴアの Mormugao 港に到着、港内には多数のユリカモメ様のカモメ(嘴は褐色)が見られた。10:40 頃港内で一時アンカー。船にやって来た新和海運のエージェント、custom officer らにパスポートを見せたり、明日のボンベイ行きの船のことなどを打ち合わせる。明日 12 時に客船が来るという。その後 Sampan に乗ってひとまず上陸、埠頭に上がると 10 数人のみずばらしいインドの人たちがうさんくさそうに我々を眺めており、客待ちをしていたタクシーのドライバーが乗らないかと声をかけてくる。まず Custom house (といってもコンクリート作りの小さな事務所で机一つと電話が一つあるだけでオフィサー

二人、女の事務員一人がいるだけ）に行き、通関手続き、エージェントから渡された我々の荷物のリストを見ながら織機はどれかとか、それぞれ2台の camera はどれかという、camera を見ただけで約20分でOK。何も荷物を開かずにすんだ。インドの税関はうるさいと言うことをさんざん聞かされていたので、ややあっけない感じである。その後すぐ近くの掘っ立て小屋みたいなところに事務所を持つエージェントまで行くことになり、クーリーに荷物を持たせたが、我々がやっと持ち上げられるほど重いリュック2個を頭の上にのせ、さらに後山さんの camera の道具箱20kg位を肩にかけて運んだのには少々たまげた次第。エージェントの汚い、小さな事務所に荷物を預け、鍵をかけてそこを出た。まわりには宿無しの人間がうようよしているのので少々不安な感じであるが、エージェントは絶対安全だという。その後エージェントの自家用車で Vasco Da Gama まで送ってもらう。Vasco の街の中で車を降り、まず近くにあった鉄道の駅に入って、ちょうど停車していた古ぼけた汽車の写真を撮ったり、乗客を見て回る。駅構内では靴磨きの子供二人がうるさく Master shoe shine といってつきまとい、離れない。駅前に出て道の両側にある売店を冷やかしたり、海岸に出てみたが、海岸は異様なにおいが立ちこめていた。その後裏通りの方に入ると一航士、二航士らの一行とばったり出会い、ホテルのバーベビールを飲みに行った。ビール1本3.5ルピー、日本のうまいビールを飲みつけている我々にとってはあまりうまくない。ビールと言えば、我々は札幌から来たというと、すぐ Sapporo beer といってよく知っているのに驚かされた。ここをでてから裏通りにある土産物屋や小鳥屋、野菜マーケットなどをみまわる。マーケットには小さなトマト（あまり味は良くない）オレンジ（甘い）、ニンニク、マンゴー、バナナ、その他様々な野菜や果物が並んでいた（インゲンの様なサヤの長いマメもあった）。我々がマーケットに入るとジャパニ、マスター買わないかと盛んに声がかかる。土産物店の番頭はすべて日本語で商談ができる。この港に来るのは日本船が一番多いので日本人は良い客である。さんざん値切った後、後山さんは象の彫り物を10個近くも買う。しかし敵もさるものなかなか値引きをしない。小鳥屋では日鉱丸の船員が5〜6人盛んに値切って緑色のインコやサル（カニクイザル?）を買っていた。インコの値段は前に来たときは15ルピーもしていたのに今回は最初7ルピー、最後には5ルピーであったという。また小ザル1頭とインコ2羽を100ルピーで買った船員もいた。4:20:4人でタクシーに乗り、Mormugao に帰る。4人で3ルピー。本当は一人0.5ルピーらしい（インド人の場合）。船で夕食後6時着岸。Vasco ではガソリンスタンドの親父に呼び止められ、椅子を出してまあ休んでいけと言うので、しばらく休んでいるとコカコーラはどうだと言うので、いや結構と断ったが、なかなか人の良さそうなおやじは、「いや、あなた方はお客さんだから」といって子供にコカコーラを2本買いにやらせ、ごちそうしてくれた。全く予期していなかっただけにうれしかった。お礼に後山さんがフィルムを1本やったので、「ところであなたは camera を持っているか」と聞いてみたところ、よく聞いてくれたとばかり、「俺は Cannon Flex を持っている」と自慢そうに話していた。何でも親戚の誰かが船長とかでシンガポール、日本などにも行くと言うことであった。フィルムをやった途端に日本人は nice people だとお世辞をいわれた。夜7:30ころ船長と共に再び Vasco へ行ったが、途中の道路（2km位）にはほとんど切れ目なく通行人がおり、10時過ぎに帰るときにもやはり多くの人が道路を歩いていた。いったい彼らはこんな夜遅くまで何をしているのだろうか。そういえば子供達は暑い昼間よりも活発にはしゃぎまわっており、街の人も夜の方が多く、活気がある。昼間閉まっていた店も夜には開いているところが多いようであった。ボクセスといいながらしつこくつきまとう女や子供も夜の方が多かった。夜10時過ぎともなると、街や港のコンクリート上には無数の人間が魚河岸のマグロのようにゴロ寝しており、インドにおける人間の多さと貧しさを改めて思いしらされた。しかし、一方ではスポーツカーを乗り回している人間もいたのに。Vasco はごく小さな街なので、だいたい船乗りの集まるところはきまっており、Luchy という木製品の土産物屋、ホテルのバー、小鳥屋、Seamen's club などに行けば、いつも見慣れた顔に出会うので、みんなでわいわいひやかしながら買い物をしていた。

8(月):Goa(Marmugao)-Bombay. 12:00 Marmugao 発(曜日によっては Panjim 発のこともあるらしい)の汽船に乗ってボンベイに向かうため、日鉱丸の人たちにお礼を言って8時頃下船した。(船長、梶原興成、一等航海士、前田光俊(ジェントルマン)、機関長池田外喜雄、一等機関士村中元日(世界各地の面白いところをよく知っている)通信長岩村巖)

ボンベイ行きの船は First class 75.00Rs、2nd class 54.00Rs (以上が Cabin)、3rd class 18.00Rs (Deck にごろ寝)。3rd class の Deck は満員で全く汚いことこの上なし。金物の盆の上に一杯飯を盛り、少々のカレー汁と何かの菜で家族が食事していた。時間が無かったのでエージェントに60ドルをインドルピーに換えてもらったが、公定レート1ドル7.5ルピーで450ルピー。このうち船賃二人で150ルピー、残り300ルピーの内100ルピーを後山さんに持ってもらう。ファーストクラスの部屋はなかなか快適であるが、日鉱丸の State Room より少し広い程度で二つのベッド、洗面所があり、床は絨毯。それでも最初はファーストクラスが無いと言われたので三等室にするつもりだったので、

この部屋が取れてほっとした。さすがにファーストクラスにいるインドの人たちの女性は美人が多い。サリーはなかなか良い。キャビンの方々にガードがいつも見張りをしているので荷物もまあ安心といえる。夜はセカンドサロンで乗客のゲームとして賭け事が行われていた。食事はインド料理だがなかなかいける味である。

9 (火) : Bombay. 晴れ、早朝ボンベイ港に到着したが着岸は 8:00。岸には赤い衣装を着けたポーターが多数おり、着岸と同時に船内に殺到し、一等客の奪い合いをする。タクシーまで荷物 4 個を持たせたらチップ 5 ルピーを要求したが 3 ルピーしかやらない。タクシーに Victoria Terminus 駅まで行かせるのに 10 ルピーもぼられた。港から駅までは遠いと言っていたが、乗ってみればほんの近いところで、メーターで来れば多分 1 ~ 1.5 ルピーである。ここでまたポーターに荷物をもたせクロークルームまで運ばせたがこれも 4 ルピーを要求、しかし 2 ルピーしかやらず追い返す。荷物を預けたがすべての荷物に錠をかける必要があり、錠をかけないと受け付けない。その後、まず切符を買うため売り場へ行ってみたが Allahabad までのファーストクラスもセカンドクラスも全く空気がなく、困って日本領事館に頼んで何とかしようと思って電話をかけようとしていると、子供を連れたインド紳士から話しかけられ、領事館なら自分の家の近くだから連れて行ってやろうと言われ、タクシーに乗る。まず自分の家によってお茶でも飲んで行けと高級住宅地にある立派なマンションに連れて行かれ、コカコーラをご馳走になる。名前を S.K. Dhawan 氏といい、すぐ立派な彼の家の応接間で彼の母や奥さんに紹介された。いずれも上品な High Society の婦人達である。彼は貿易商でいろいろな物を扱っているらしい。彼は名刺の紙を見せて、これは手漉きの紙で、これもアメリカ、カナダ、オーストラリアなどに輸出しているといっていた。英文の Japan という日本紹介の本を持ってきて見せたり、自分の結婚式の写真や家族のアルバムを見せてくれた。帰りに部屋を案内してくれたが、大きなすごく立派なベッドルームが 3 つあり、多分インドでは最高級の暮らしをしているのだらうと思われた。全く親切な人で、そこからタクシーを拾って日本領事館まで連れて行ってくれた。不案内なところでタクシーに乗っても外国人とみてぼられるのに、全くありがたいことこの上なし。彼は我々を送り届けるとすぐ帰って行った。本日はインドの宗教上の休日で領事館も休みだそうであるが、今までの総領事(大口信夫氏)が明日転任になってメキシコへ出発するそうで、そのため館員もたまたまできてきたわけで幸運であった。今日は休日なので受付でごたごた言っていると、インド紳士 (Mr. G.A.Qureshi) が現れ、流暢な(全く流暢でへたな日本人よりもずっと立派で完全な)日本語で対応してくれ、領事(岩谷氏)のところに案内してくれた。そして汽車の切符も何とかしましうといってくれ、本日は無理なので明日の分を手配するとして、本日のホテルとして Ascot Hotel を紹介してくれた。このホテルは小さいがなかなか良いホテルである。この領事館からホテルに来る前に Victoria 駅に行って、預けた荷物をとったが、この際急に吐き気をもよおし、少しはいてしまった。今朝から何も食べていなかったのも、空腹と暑さで疲労したためであろう。すぐタクシーでホテルまで行き、食事をとって休んだところすぐ回復した。その間、後山さんは領事館でつけてくれた日本語を喋るインド人、プラブー氏と共に市内見物に出かけた。夕方散歩にでて、Prater の The book of Indian Animals を 30Rs で買う。頭部黒褐色のカラス、スズメ多し。小型のコウモリを見る。夕方には比較的食欲も出てホテルの食事全部食べることができた。夜 9 時過ぎ再び街を散歩、オレンジを 4 個 1R で買う。路上で Suncus を 1 頭見た。捕まえようとしたが逃げられた。

10 (水) : Bombay. 晴れ、7 時間くらい眠ったので気分は良好、しかしやや胃がもたれる感じ。10 時に領事官の車が迎えに来てくれて領事館に行き、Qureshi さんが鉄道局へ連れて行ってくれ、切符の手配をした。しかし本日はなく、11 日の分の予約を取ってくれた。色々面倒な手続きが必要で、我々だけであればまず完全に不可能であったが、鉄道局の渉外課の上部に働きかけてくれた御陰で、やっと切符が手に入るようになった。全く Qureshi さんがいて、よくやってくれた御陰であり、全く感謝に堪えない次第である。その後正午からは Qureshi さんご自身の車で市内見物に連れて行ってくれた。まず、昼食をご馳走になり(シナ料理)、その後 Gate Way of India、タジマハール・ホテル、鳥葬族パーシー族の Tower of Silence、インド国民会議派の発祥地であるアラビア海に面した海岸の砂浜、ネール婦人名公園、回教寺院、バザール、売春街、完全な回教徒だけの街、ユダヤ人だけの街、などボンベイ市の一通りのもの、ほとんどを見せていただいた。この見物は午後 5 時まででもかかり、まことに Qureshi さんには感謝の言葉もないほどである。またいろいろ見せていただいただけでなく、そのものに関するきわめて適切な解説や説明をしていただいたので大変良い勉強になった。ルピー換金ができないのでホテルで 90 ドルを 7.5 ルピー / 1 ドルで変えてもらう(675 ルピー)。夜、散歩に出ていると少年に出会い、時計を売ってくれと言われ、さんざんつきまとわれ困る。しかし結局売らず。ホテルで日本人夫妻に出会う。この人はボンベイから 100km くらいはなれた OTCA の日印稲作センターで働いている大坪栄一郎氏夫妻で、インドにおける稲作指導者を養成するため 3 年間こちらにいたそうで、近くそ

の契約期間も終わって日本に帰るそうである。今朝出発された総領事を見送りにボンベイまで出てこられたそうで、見送った後このホテルへ食事にこられたところで我々に会った。農場では大変良い成績が上っているとのこと。農場には大型のネズミが多数おり、イネにもひどい害があるという。また家には *Suncus sp.* が多数見られるという。

11 (木) : Bombay (Victoria Terminus) - 夜発 . 朝、Ascot Hotel を check out しようとしたとき、OTCA 農場長太田季治氏に会い、我々はこれから領事館に行くというと、私も行くので向こうで会いましょうということになった。我々はプラブー氏の案内で Victoria Terminus に行つて切符を手に入れた。しかし Patna までの一等切符しか手に入らないので、ここでまた新たに買わなければならない。その後、領事岩谷氏私邸に招待され、ちょうど来ていた太田氏、川田氏と共に昼食をご馳走になった。天ぷら、カマボコ、刺身、にぎりめしなど大変なご馳走であった。今回のボンベイ滞在では、領事館の人々による歓待は大変なもので本当に感謝に堪えない。2時過ぎ、岩谷邸を失礼して太田、川田氏らと共に博物館を見学に行った。その後後山さんは死体焼き場の取材に行く。博物館には仏像その他の歴史的遺物が多く、18～19世紀のヨーロッパのガラス製品、石に刻んだヒンズー文字、厚い銅板に刻んだヒンズー文字(経典?)、竹板にきざんだビルマ文字など、西洋絵画(非常に大きな物)、動物部門では哺乳類はインド産の主として大型の獣類、鳥類—シカ類、サイ、クマ、ウシ、オオコウモリ、ハリネズミ、サイチョウの剥製と巣の構造を示す標本、ヘビ類の多数(種)の標本、魚の剥製などが見られた。小型哺乳類はほとんどなし。博物館見学後、タジマハール・ホテルで後山さんと落ち合い、太田氏、川田氏とわかれて駅に行く。18:45 Victoria Terminus 発 Calcutta Mail 一等寝台に乗る。汚いがまあ何とか行けそう。夕食 (Vegetable) をボーイに運ばせたがなかなかいける。インドの汽車は寝台車でも、ただ単にリノリウム張りのシートがあるだけで毛布も何もない。インド人は特製の寝袋を持ち歩いている。

12 (金) : 夜中 Mughal Sarai 着 . 朝、目を覚ますとインド内陸の農村地帯で広々とした農耕地ばかりであるが、乾期のため農作物はほとんど無く、ごく一部で麦の収穫が行われていたにすぎない。正午、汽車一等室内 39℃、窓の外で 42～3℃。しかし空気が乾燥しているので汗は流れず、比較的しのぎよい。昨夜は涼しく、裸では少し寒いくらい。一日中同じような乾燥した農耕地を走る。夜、23:55 Mughal Sarai 着、乗り換え。一等待合室で 2:50 まで待ち、その後 8 down に乗り換え 6:31 Patna 着。この間同室のインド人と日本のことインドのことなど、いろいろな話をした。インド人は議論することが好きらしく、口角泡を飛ばして長時間議論するのはあきれるばかりである。同室の一人、ボンベイでサリー商をやっている K.L.Shah 氏によると、サリーには綿、シルク、ナイロンなどがあるが、綿が最高であるという。また、Vanaras のサリーがインドでは最高で、Shah 氏もベナレスまでサリーの仕入れに行く途中であるという。ベナレスは Mughal Sarai で乗り換え、西へ 6 マイル。帰りにボンベイへ来たら是非寄れという。同室のもう一人 S.R. Singh 氏は電気商で、大変物知りであり、政治的な立場などもきわめてはっきりしたものを持っている、たとえば、中立主義などというものは no policy にすぎないという。インドのネルーなどもそれであったという。世界情勢、日本のことなどもよく知っている。大変親切な人で、Mughal Sarai で乗り換えたとき、我々のために寝台二つを確保してくれ、自分は寝台なしで過ごした。この日見た鳥 : Black Drongo、乾燥した農村の所々にある湿地ではサギ、トキ、ツル。

13 (土) : Mughal Sarai-Patna- ガンジス川—Sonapore-Raxaul. 早朝 6:31、Patna 着。Shingh 氏が我々二人に待合室で待つておれといい、私は自分の家に帰って 8 時に迎えに来ると行って帰った。待合室でモーニングティーをのみながら待っていると、8 時頃自分の車、Ambassador できてくれ、ガンジス川渡船場まで行き、Muzaffarpur までの船、汽車の切符を買ってくれた。代金を払おうとしたら、これはプレゼントするといって受け取らない。まことによい人で、帰りには是非寄れ、寄らなければいかんといって渡船場で見送ってくれた。川を渡って Sonapore 駅の引き込み線の端のようなところから汽車に乗った。3 等切符を持っていたが一等室に乗り込んだ。Muzaffarpur で汽車を乗り換え、Sagauli 行きに乗る。Sagauli でまた乗り換えて Raxaul には夜暗くなってからついた。駅は停電か何かで真っ暗であり、降りたところでカトマンズ行きバスの切符売りがやって来て、早速切符を買わされた。一等席 (一番前の運転手横の席) 18 インドルピー (ネパールルピー 24) で支払いはいンドルピーでよい。そのほか荷物の代金として 5 ルピー追加され、更に 5 ルピーのチップを取られた。また、切符売りがホテルへ案内したが、ホテルといっても小さな Tourist lodge で、1 室に蚊帳つきベッドが 2 台あるだけ、停電中で真っ暗の中、ランプの下で夕食をとった。長い車中旅行でライスを食べなかったが、ここでやっとライスにありつく。しかしうまくない米で、ばさばさした米である。それでも今日は朝から果物と飲み物 (茶) だけであったのでうまかった。車中ではインドの大学生に取り囲まれ、いろいろ話をしたり、歌を歌ったり楽しいときを過ごした。

見た鳥 : Black Drongo 多し、インコの類 (緑色)、上空を飛ぶ尾の非常に長いインコ?—サンショウクイのような

飛び方、トビ、House crow、キツツキ？ ヤツガシラ。

14 (日) : Raxaul-Kathmandu. 朝 5 時起床、5 時半にトーストとフライドエッグで朝食をとり、すぐロバに引かれた車に乗って税関とチェックポストに行き、税関の男をたたき起こして出国の手続きをする。国境といっても全く何もない。インドの田舎の農村に過ぎず、手続きもごく事務的で何も問題は無い。車でそのままネパール側 Birganj に入りチェックポスト、カスタムを済ませたが、ここでも全く事務的で荷物についても何も見ることなく、ただカメラを 1 台持っていることだけを書いてそれで OK。金の申請、荷物のチェックなど全くなし。カスタムハウスのところからカトマンズ行きのバス（ドイツ製ベンツの大型バス）に乗るが、長いこと待たされ、8 時過ぎやっと出発。ここには小さな茶店が 2～3 軒あるだけで他にになにもなく、まわりは取り入れ中の麦畑があるのみ。すべての物がからからに乾燥していて、ほこりっぽいことこの上なし。樹上に丸い巣を作ってヒナを育てるイエスズメあり。ここを出発後、農耕地となっているインド平野を走り、テライのジャングルに入る。ここは噂にきいていたとおり、かなり大きなジャングルであるが、現在は乾期の真最中のため木の葉は落ち、林間はすいて林中は明るい。しかし鳥は色々なものがおり、Black Drongo、Common green bee-eater、Indian roller、カワセミ（日本のものと同じ）などが見られた。テライのジャングルを過ぎ、山にかかってシワリークを越え、小さな街で一時停車して 30 分ほど休む。ここには小さな川もあり、この付近なら小哺乳類の採集も可能と思われた。ここを過ぎ、くねくねと曲がりながらマハバーラトを登るにつれて大きなカシの類と思われる木が多くなり、幹や枝にはセッコク、地衣、ランなどが多数付着している。これを上り詰め、頂上の茶屋（キリンビール缶詰が多数売られていた）で一休みして下り始めると、こちら側は山の頂上まで一面に耕作された、いわゆるネパール風景ばかりとなる。全く天まで登るかと思われる段々畑で、山の斜面、全山が耕されている。このような風景に変わってからも長い時間バスで走り、夜 6 時頃カトマンズ着。あこがれのカトマンズに着くと、人は皆全く日本人そっくりで、何となくほっとする。すぐ輪タクに荷物を積み、とりあえず宮原氏のところへ訪れると、図らずも先発隊は宮原氏のいる Garden Inn にいることがわかり、歓声を上げる。すぐシェルパに夕食を作ってもらい食べる。そのうまかったこと、何ともいえない。色々インド旅行などについての話がはずむ。途中カトマンズに入ってから、道路上にて多数の Jungle myna がみられ、またキジバトに似た尾の長い Spotted dove も多数見られた。その他ノビタキの類、アマツバメなど。

15 (月) : Kathmandu. 午前中ネパール外務省に出頭して 4 ケ月の滞在延長と Pokhara、Tansen、Tukuche への Treking permission をもらいに行く。しかし申請のみで、明日取りに来てくれといわれる。ネパール政府の建物はラナ王朝時代の宮殿だそうで、大変大きな美しい建物である。その後街を見物する。街には日本製のベレット「タクシー」やダットサンプルーバード新型車なども少数見られるが、大部分の車はドイツ製で、ベンツ、フォルクスワーゲンが多い。インドのアンパッサダーも見られる。街にはアサヒビール、キリン、サッポロビールなども出回っている。街には活気があり、我々が歩いても顔が似ているためか、インドほど注目を引かず、また、インドほど人が寄ってこないのうさくさくない。乞食なども少ない。午後は Garden Inn の庭園内で Jungle myna、Redvented bulbul、Magpie robin、House crow、オウチュウなどの写真を撮る。小鳥類特に myna、bulbul は Bottle flash flower（赤）の蜜をすいにくらしく、この花に多数集まる。夕方園内に 6 間のカスミ網をかけ、ネズミワナ 5 個をかける。コウモリはみられず。

16 (火) : Kathmandu. 庭のカスミ網で Tree sparrow、Robin、Bulbul がとれる。午前 9 : 30 より久万田さんとともに市内北方 2 マイルのところにある Balaju Natural Garden に行く。ここは入場料 10 パイサで、カメラを持っていれば更に 50 パイサとられるという。我々は入場料のみを払う。中には Redvented bulbul、Black drongo、Magpie robin、Spotted dove、Common myna、Bluethroated berbet などが見られたほか、センダイムシクイの声に似た鳴き方をする、小型の腹の黄色いウグイス？も見られた。ここからの帰りの途中の河原で Grey wagtail を 1 羽、また水田近くのドブ川の上で Whitebreasted kingfisher を 1 羽みる。川辺のヤナギ、バラ林にネズミワナ 10 個をかけて帰る。3 時頃よりカスミ網で採集した鳥の剥製を作る。庭ではその後 Common rosefinch ♂、♀、Greyheaded myna 1、House sparrow ♀などもとれ合計 14 の剥製を作る。

17 (水) : Kathmandu. 朝、カスミ網にて Shortnosed fruit bat 1 ♂<sup>(1)</sup> がかかっていた。午前外務省へ Treking passport を取りに行く。我々は official passport のため手数料なし。一般は手数料 1 ルピー。またボカラ行き航空券 12 枚「25 日出発」を買う。一人 79Rs. 一人荷物 20Kg まで OK。超過分は別。郵便局でネパール切手一揃いセットを買い、は

(1) *Cynopterus sphinx* コバナフルーツコウモリ ♂【57629】。

がきなども買う。昨日かけた川辺のパチンコはそのまま。何もとれず。夜の街を歩いてみたが、夜の方が商店街は活気がありきれいだ。銀製マニ(チベットから来たもの)金製像などが土産物店に見られるが非常に高価である。オレンジ1個が1ルピー数十パイサで、インドの4個1ルピーに比べると高い。街のニューロードで結婚式の楽隊入り行列に出会ったが、男の方がお嫁さんの家に行くそうである。夜、日本の12氏にカトマンズ到着の通知を出す。カトマンズ盆地は緑が多く、現在新緑の初期であり、毎日晴天続きで、日当たりは大変暑い。空気がきわめて乾燥しているため日陰は涼しい。夜は冷えるので長袖シャツが必要。コムギはまだ青々しているがオオムギは収穫中。(われわれは隊員7名、シェルパ5名、シェルパサダーはラクパ・テンジン)

18(木):Kathmandu-Godavari. 今日から Godavari 行き、10時にランドローバーが来て荷物を積み、隊員7名、シェルパ2名(ラクパ、カルマ)が乗り込んで11時頃 Godavari 着。寺の横でキャンプ。早速採集、観察を始めたが、チョウ、セミなどきれいなものが続々とれる。我々山田、正富、阿部、渡辺は Water Garden に行く。この garden は天然の小沢を多数取り入れた庭で、flycatcher、メジロ、キセキレイ、ビンズイ、ツツドリ、アオゲラ(ケオケオと啼く)、ヤマムスメ(5羽)、小型フクロウ(ホロロロと啼く)、Magpie robin、ツグミの仲間、ハトよりやや小型、全身黒色、嘴黄色の鳥2羽、などを見る。キャンプ地付近では Yellow cheeked tit、ビンズイ、アマサギ4-5羽、Bluetheated barbet が見られた。また、川辺では大型のセグロセキレイの一種、ミソサザイなどが見られ、夜はヨタカが啼く。非常に乾燥しているのでネズミのいそうなところは大変少なく、Water garden の近くの小川沿いにワナ16個、トラバサミ1個、キャンプ地近くの岩垣沿いにワナ7個、川辺に6個をかける。また、川の上にカスミ網2枚を張ったが、5時頃かけた網には7時頃までにキクガシラコウモリ3頭がかかっていた、はずす間に1頭が逃げ、2頭<sup>(2)</sup>採集。他にも大きな穴を開け逃げたものがあるらしい。7時前にかけた網にはかからず。5-6時頃に最もかかるらしい。この付近は雨期になればネズミも多くなると思われる。川にはウグイのような斑紋のある魚がかなり見られる。

19(金): Godavari. 朝3時頃起きてカスミ網を見まわったがなにもかかしていない。朝ワナを見回った結果、Suncus 2<sup>(3)</sup>、Mus 2(1くわれ)<sup>(4)</sup>、がとれたのみ。昨夜のコウモリは2種いることがわかり、頭部スケッチ。尾の長いカササギの一種を見る。午後1時チョウの採集を行い、数種を採集。黄色のセミも採集。夜にはホタルが見られた。新たにキャンプ地付近の林縁、水流沿いにワナをかける。この付近には大きな森林や灌木林が一面にあるが、家畜(牛、水牛、ヤギ)を放牧するので、下草はローンのようにになっている。また、きわめて乾燥していてワナをかける場所がきわめて少なく、細流や川沿いまたは湿地(湧水)の周辺しかワナかけの場所がない。また、ネズミの穴もその付近にしかなく、また少ない。森林中も下草がないため、地表は明るく、落葉はどどんかきとられてしまうので、落葉層がきわめて少なく、ワナ掛けの場所がない。コウモリは夕方6時45-7時10分にだけ飛翔しており、川の上に張った網で1頭のキクガシラコウモリ<sup>(5)</sup>を採集。網の近くで反転したり、かかっても跳ね返って逃げたものが3頭あった。網の前に木を立てるのが良い。鳥類はゴジュウカラ、カササギの1種、褐色の大型ツグミ(採集)、ヒタキ(採集)等。ネズミのワナかけ中、カタツムリ1個採集、隊員はそれぞれ成果があったらしい。山頂に登らず、学校、寺の付近でのみ採集。

20(土): Godavari-Kathmandu. 本日は一日中キャンプ地付近で過ごした、ネズミは Rattus sp.2頭<sup>(6)</sup>(腹は薄い茶色)が農耕地の中を流れる溪流沿いでとれる。溪流の部分のみ灌木が残っている細長い灌木林で、畑はきわめて乾燥していて草もほとんど無い。従ってこの細長い溪流部分のみで生活しているものと思われる。比較的大きな流れ(川幅4-5m)の付近は乾燥と下草がほとんど無いことから、ネズミ類は全くとれない。キャンプ地付近の疎林(下開け、下草ほとんど無し)中の湿地縁で Mus 1頭<sup>(7)</sup>を採集(この部分に木の実を集めていたのでワナをおいたもの)。川(幅4-5m)でウグイに似た魚を採集。稚魚は比較的多いが大きなものは少ない。水温15℃、気温25℃(午後3時)。魚はこれ1種らしい。水中にはオタマジャクシが多い。また、寺の山門前の細流沿いのドロの中にて小型の2枚貝、

(2) *Rhinolophus affinis* ナカキクガシラコウモリ ♂【57647】および *Rhinolophus pearsoni* ピアソンキクガシラコウモリ ♀【57643】。

(3) *Suncus murinus* ジャコウネズミ ♀【57271】。目録では20日採集としたが18日の誤り。1点はネパールに寄贈。

(4) *Mus cervicolor* クチバハツカネズミ ♀【57325】。目録では18日採集としたが19日の誤り。

(5) *R. affinis* ナカキクガシラコウモリ ♂【57648】。標本の採集日は翌20日になっている。

(6) *Rattus rattus* クマネズミ ♂【57530】および ♀【57529】。

(7) *M. cervicolor* クチバハツカネズミ ♂【57326】。

キセル形巻き貝、巻貝の 3 種を採集。また疎林中の落葉のあるやや湿ったところで平らな巻貝を 1 個採集。鳥は網を 3 箇所にかけたので 10 種 12 個体が採集された。サクランボの実が熟れたところにはツグミ類が集まり、採集。コノハズク 1 羽もとれる。疎林中にかけたものでは Fire breasted flower pecker (きわめて小型)、小型のキツツキ、クレストのあるカラ、Rose finch ♀、ビンズイ、センダイムシクイ sp. などがとれる。全身が真っ赤で頭と羽の一部が真っ黒の小鳥や、全身真っ黒で真白の斑紋のある大型セキレイなどはついに採集できず。松村君は植物園で多数のきれいなチョウを採集してくる。今日は土曜日でこちらの休日。日曜は平日だそうである。寺ではお祭りがあり、生きたヤギが 1 頭、子供達によって殺され、その血を仏像にかけてお祭りがされたという。後山さんが一部始終を観察。盛装した村人が続々寺に集まる。夕方 4 時、ランドローバーが迎えに来てカトマンズに帰る。夜は 1 時頃までかけて鳥の剥製を作る。Godavari 付近ではウサギの糞をみかけたし、また小型のシカもいるという。

21 (日): Kathmandu. 今日は午前中市内の寺、バザールなどをまわり写真を撮る。カトマンズ市内は自転車があれば一周は容易で、街の大きさは手頃である。一番の繁華街はニューロードで、ここでは車は路の中央線に駐車することになっているし、相変わらず牛が道路を歩いていたり、道路中央で寝そべっていることがある。本日は街の中心部の一部の寺しかまわれなかった。夕方、再び Garden Inn の庭にカスミ網をかけると共に、市内北方のブッシュにトラバサミ 2 個をかける。

22 (月): Kathmandu (Balaju) . 朝、Shortnosed fruit bat (Cynopterus sphinx) 3 頭<sup>(8)</sup> が網にかかっていたが、トラバサミの方は餌がとられたのみ。今日は正富さんと共に Balaju に登る。9 時出発、9:30 頃登り始める。公園付近では Robin、Redvented bulbul、Bluethroated berbet、センダイムシクイ sp.、Common myna などを見る。100m (カトマンズ盆地—標高 1300m—からの高さ)、マツの高木林 (25m 以上) ではウグイス sp. のみ。標高 200m (+ 1300m) のマツ、広葉灌木林の尾根ではツバメ、オーチュウ、Spotted dove (鳴き声クッククックークークーク)、Vulture などを見る。頂上付近 (2080m) では全身赤と黒の小鳥、Drongo (多)、Firebreasted flower pecker、flycatcher sp、キジバト、ツバメ、ビンズイ、キツツキ (頭赤、背まだら)、Black bulbul などが見られ、尾根にかけた網には Black bulbul 2 羽がかかる。正午頃頂上に着く。頂上で 4 時半頃まで鳥の写真を撮って過ごす。オーチュウ、赤と黒の小鳥、キジバトの写真を撮る。頂上付近には広葉樹林があり、南斜面は下草がきれいに刈り取られているが、北斜面にはブッシュがあり、ネズミのトンネルやドングリを集めて食った後が見られた。しかし非常に乾燥している。尾根にはワシ・タカ類のペリットが多数落ちていたが、いずれもネズミの毛や歯で、ネズミ類がかなりいることが推察された。採集には斜面が良い。夕方帰る途中、700m (+ 1300m、カトマンズ盆地の標高) 付近の広葉樹林にてリーサスモンキー 1 頭を見、またやや下った広葉灌木林にて Muntjac 1 頭 (角なし) を目撃した。頂上付近でもシカの糞を多数見たので、かなり生息しているものと思われる。また、獣道も多数見られる。700m (+ 1300m) 付近の尾根にかけた網で Black bulbul 2 羽を採集。Garden Inn の庭で夜ジャコウネズミの鳴き声を数回聞いたのでワナ 3 個をかける (鳥肉の餌)。夜 8 時頃見たときコウモリはかかっていたが、11 時頃には Shortnosed fruit bat 1 頭<sup>(9)</sup> がかかっていた。その後朝までにはコウモリ全くかからず。庭で Spotted owl 1 羽採集、もう 1 羽いる。

23 (火): Kathmandu (Balaju Khola) . 朝 6 時頃にわか雨あり。今日は一日中曇りで、時々ぱらぱらと雨が降る。また一日中雷が鳴る。昨夜かけたワナ 3、このうち 2 個にジャコウネズミ<sup>(10)</sup> がかかる。午前中はコウモリ、ジャコウの標本作り。午後は市内北部の川、Balaju Khola 堤防ブッシュに大型ワナ 15 個をかける。この河畔ブッシュには大型ネズミの通路や穴が多数見られる。また、ここで 4 時頃 Small Indian Mongoose 1 頭を目撃した。先日来、イタチの糞と思っていたものはこれの糞であつたらしい。また、昼前には正富さんと共に Annapurna Hotel 前の民家屋敷内にある大木の上の方にぶら下がっているオオコウモリ Pteropus giganteus の写真を撮りに行く。暑いので翼を開いたものや翼をひらひらさせているものがある。夜 7 時頃、庭内の Brush tree の満開の花を食いにオオコウモリが集まってきた。

24 (水): Kathmandu. 庭のカスミ網で Spotted owl がまたとれる。しかし、夜にはまた 2 羽の鳴き声が聞こえたので、このフクロウは多いものらしい。昨日かけた Balaju 河畔ブッシュのワナで Mus sp 2 頭<sup>(11)</sup> を採集。河原ではチドリ sp (コ

(8) 同日捕獲された *C. sphinx* コバナフルーツコウモリは ♂【57631】、【57632】、【57633】および ♀【57630】。後掲注 (9) の標本もここに含まれる。

(9) 前掲注 (8) 参照。

(10) *S. murinus* ジャコウネズミ ♂【57272】および【57273】。

(11) *M. cervicolor* クチバハツカネズミ ♀【57327】。1 点はネパールに寄贈。

チドリ大)、ハクセキレイ sp、シラサギ sp (小型)を見る。カトマンズ付近の農作物はオオムギ (少ない、収穫中)、コムギ (最も大面積につくっており、やや色づいた程度)、ジャガイモ (赤、小形、比較的多く作っていて現在収穫最盛期)、タマネギ (小形、白、赤あり、収穫期で、路傍で多数売っている)、ソラマメ (収穫期に近い)、カリフラワー (多く、収穫期で、市場で多数売っている)、赤紫色の大根等。路傍にはニワトコ sp が比較的多く、山では *Magnolia* sp も見える。午後はずっとポカラ行きの荷物の仕分けに当てる。夕食は庭でジンギスカン鍋をやり、シェルパ達とともに鍋をつつく。夜は 11 時頃まで鳥の剥製作り。昨夜も午前 2 時までかかって鳥の剥製作りをやったので少々疲労気味。

25 (木) : Kathmandu-Pokhara. 朝 4 : 30 起床、トラックに荷物を積んで空港へ。6 : 30 発飛行機に乗るが大量の荷物を無事に積むことができた。約 45 分でポカラ着、ポカラ空港はちょっとした草原で、滑走路は砂利道のようなもの。それでも DC-3 機は比較的スムーズに着陸。飛行場の柵にはオーチュウが見られた。近くの Annapurna Hotel (といっても平屋の小屋のようなもの) 裏の広場にテントを張る。パンの朝食をとり、近くの湖の方へ行く。キャンプ地付近の農地には White Scavenger Vulture が多く、写真を撮る。その他 Magpie robin, Black headed shrike, Myna などの写真を撮る。カトマンズ付近のものよりもムクドリなどは臆病でないため、かなり近づくことが可能で、良い写真が撮れたものと思われる。その他 Yellowchecked tit、ゴジュウカラ (腹、焦げ茶色)、ビンズイ、オーチュウ、真っ黒のヒタキ (羽に白い斑点)、Tree sparrow, House sparrow. チョウは非常に少ない。ポカラは標高 800m でさすがに暑い。正午、日陰で 35℃。湿度 25%。湖の近くには白いゴイサギがみられ、Bluetheated berbet 多。久万田さんが小型コウモリ 2 頭(2 種)<sup>(12)</sup>を住民よりもらってくる。これはきわめて小さいコウモリで木の穴にいるらしい。夕方キャンプ地付近にカスミ網をかける。この付近の、各個人の所有地は高さ 1.5m 位の石垣で囲まれており、農地にはほとんど作物はないが、現在トウモロコシの芽が出ているところが多い。ここも家畜：牛、バッファロー、羊、ヤギによる over grazing によって草原はなめたように草がくいつくされているので、ネズミ類のいそうなところは、農地を囲った石垣付近や畑の中の石積み付近、または農地の角に生えている竹の木立付近、人家周辺のみである。キャンプ地付近の石垣沿い及び Annapurna Hotel の建物付近にワナ 8 個をかける。夜 8 時頃、石垣沿いのワナにて *Mus* sp. 1 頭<sup>(13)</sup>採集。本日は夕方、にわか雨が降りそうになったが、ぱらぱらときた程度。久万田、松村は昼間、湖で魚 3 種、カニを釣ってきた。コイ科の魚、ウナギなどがいるという。

26 (金) : Pokhara. 昨夜はひどい雷を伴ったスコールがあり、朝 7 時頃はまだぱらぱら雨が降っている。石垣沿いにかけたワナで更に 1 頭 *Mus*<sup>(14)</sup>を採集。しかし 8 個のワナのうち 2 個紛失。カスミ網には Golden oriole, Black-headed shrike, Redvented bulbul, Crimsonbreasted berbet, Indian roller、ノビタキ sp (♂黒、♀焦げ茶)、不明鳥 (bulbul?) などがかかる。午前中、湖のダムの下へ昆虫採集に行き、トンボを数種採集。正午頃からは昨日同様、ひどく暑くなる。湖ダム下流域の岸の岩の間および斜面下縁の草地 (被度 50%、密度小、高さ 10-30cm、乾) および 45 度の急斜面のシダ (日本四国のマツ林のシダに似る) 密生地にワナをセット。また農地を囲む石垣沿いにもネズミ用ワナ及びトラバサミをセット。夜 10 : 30 頃まで鳥の剥製。カッコウ (カッコカッコと啼く) の一種 (Balaju にいたものと同じ) が啼く。

27 (土) : Pokhara-Swingket. 朝 4 時半起床。アンナブルナ、マチャブチャリの山々が大変きれいに見え、隊員一同歓声を上げると共にカメラにおさめる。ダム下流岸 (岩の岸で割れ目が多数あり、イラクサや小灌木が一部にあり、その部分では被度 50%、密度小、乾燥) で *Mus* 2<sup>(15)</sup>、*Rattus* 1<sup>(16)</sup>を採集。右岸斜面下部の禾本科植物 (高さ 5-10cm、被度 60%、密度小) の生えたところで *Mus* 1<sup>(17)</sup>、キャンプ地付近の農耕地を囲む石垣 (小灌木疎生、密度小、被度 20%、乾燥) で *Mus* 2<sup>(18)</sup>を採集。ここにはイタチまたはマンガースの糞と思われるものが 2 箇所にあったので、

(12) *Pipistrellus javanicus* ババアブラコウモリ ♀ 【57645】および *Myotis siligorensis* ヒマラヤホオヒゲコウモリ ♀ 【57637】。

(13) 目録において同日採集の *Mus* は確認できない。後掲注 (14) 参照。

(14) *M. cervicolor* クチバハツカネズミ ♂ 【57328】および ♀ 【57329】が同日採集となっている。いずれかが 25 日採集の個体にあたるか。前掲注 (13) 参照。

(15) *M. cervicolor* クチバハツカネズミ ♂ 【57332】、【57333】、【57334】および ♀ 【57330】、【57331】の 5 点が同日採集となっている。後掲注 (17)、(18) に示されている個体とあわせて 5 点となる。

(16) *R. rattus* クマネズミ ♀ 【57523】。

(17) 前掲注 (15) 参照。

(18) 前掲注 (15) 参照。

トラバサミを 1 個かけたが不成功。湖付近にて Vulture 1 羽 (全身焦げ茶) を見る。7 時頃、全員 Annapurna Hotel のキャンプ地を出発、Tsukuche への旅に出る。隊員 7 名、シェルパ 5 名 (サーダー、ラクパ 10Rs/day、ミンマ 9Rs、キチンボーイ 2 名、各 8Rs/day など)。ここから約 2 マイルのところにあるポカラバザールを通りぬける。バザールには様々なものを売っており、なかなか活気がある。バザールの街には菩提樹の並木があり、この付近では Common myna がきわめて多く、Jungle myna は少ない。House sparrow、Tree sparrow はいずれも大変少ない。Magpie robin、Bluethroated berbet、コシアカツバメ、小形 Swift など多く、Swift は軒下に営巣している (ニワトリの羽毛を使って作ったトックリ状の巣)、黒いカラスの巣立ちビナ、カッコウ sp、トビ、Chestnutbellied nathatch などみえる。バザールを過ぎ、開けた河岸段丘上の道付近 (小灌木がある) では drongo のみ。バザールから 1 マイルのところには部落あり、ここでは Tree sparrow のみしか見られず、House sparrow は見られず。その他 Common myna、ツバメ、黒いヒタキ、Blackheaded shrike など。チベット難民のキャンプ Tarshi Palkhiel の先で昼食 10-12 時。この付近では White scavenger vulture、大型のワシ、Common myna、ツバメ、黒いヒタキ、Oriole、Blackheaded shrike、Magpie robin、drongo、Bluethroated berbet、Spotted dove、Redvented bulbul、Tree sparrow などを見る、これから上では House sparrow は大変少なく、多くは Tree sparrow。Tarshi Palkhiel の対岸岸壁のテラスに White scavenger vulture の巣がある。ここを過ぎてしばらくは木の多い部落の中の道が続き、この付近には Magpie robin が多い。この部落名は Yangche。この部落を過ぎると広大な川底一面に乾田が開け、乾いた田の中を 1km 以上歩くと、Swingket 部落があり、2 時頃ここに到着。本日はここでキャンプ。ここには茶屋が 2 軒あり、チベットからロバの隊商がのどかな鈴の音を響かせながらやって来る。川の左岸 (南斜面) 上部に小部落があり、その付近の菩提樹付近には Redbilled magpie (尾長)、Bluethroated berbet、やや大型のきれいな berbet、Spotted dove、drongo、Common myna、黒いヒタキなどが見られたが、2 頭の Rhesus monkey も見られた。斜面の畑の石垣沿いおよび 45 度ほどの急斜面 (シダ、ヨモギ、チガヤなどのブッシュ、被度 80-100%、密度中、乾燥) にワナをかける。日本のカッコウと同種のものの声も聞かれる。夕方、夕立が来そうになり、強い風が吹いたが、ぱらぱらと降った程度。

28 (日) : Swingket-Modi Khola. 第一キャンプ地 Swingket を 6 : 30 出発、川床を約 30 分歩いて斜面にとりつく。ここには 2-3 軒家があり、北斜面 (右岸) にはカシ類が密生した林があり、下草としてシダやコケがあり、落葉や湿度もあってよい林である。ここでテンの糞を見る。その後正富さんはテン (Himalayan yellow-throated marten) の姿を見たという (1150m)。この林区間はわずかで、1200m 付近になると人家があり開けた耕作地となる。これを上り詰めたところが Naudara 峠 (1400m) で、8 : 20 着。ここからは Annapurna や Machapchari が一部見えたが、大部分は雲に隠れていた。また、南東方向に Pokhara 湖や飛行場が遠望できる。トビ、ツバメ (巣立ちした若鳥)、Tree sparrow、カラスなどを見る。木のない耕地が一面に広がり、日光が強く暑い。途中チョウの採集をしながら歩く。峰伝いに歩き、Kangure deurari という峠 (1650m) の部落で昼食。この峠を越えて北側すぐのところには林 (上部は Quercus semicarpifolia、下部 Q. lamellosa) が残っており、シジウカラ (日本のもの似るが黄色部が強い) 2 羽が青虫をくわえているのを見る。この斜面には水のある溪流が多い。しかし、ここを過ぎて南斜面になると、再び耕作地が開け、水牛が多数放牧されている。この地帯 1560m 付近の部落で日本のものと同様と思われるノビタキ ♂ ♀ を見る。またこの付近の開けた耕地ではビンズイのようなヒバリと思われる鳥が空中で囀っているのが見られた。Common myna はここでも多く、Drongo も見られた。スズメは Tree sparrow のみ。これから大きな谷底 (Modi khola) に下り (1050m)、川辺でキャンプ (3 : 30 着)。この下り坂は 500m くらいの高度差があり、きわめて急な階段状の道である。帰りが思いやられる。川の水は少し濁っているが大変冷たく、足をつけていられない。身体を洗うと気持ちよい。北斜面には広葉樹高木林があり、林床にはシダ類が生え、落葉も多いが、乾燥している。ここに 18 個のワナをセット。その他、河原縁の灌木林、岩場にワナ 10 個セット。ここは乾燥しているが落葉は比較的多い。また夕立がぱらぱらと来たが、それだけでマイマイがはっているのが見られた。またヒルが足にすいついて大量の血を吸っているのがわかった。川辺にはセキレイ、ヤマセミ、カワセミ、カワガラスなどが見られる。夕方渡辺君が腹痛を訴え、食欲がなく、胃薬と後山さん持参のクロマイを投与。冷たい水につかったのと極度の空腹によるらしいが、虫垂炎だと困るので抗生物質も飲んでもらう。久万田さん誘蛾採集。正富さん、対岸に渡ったが暗くなって道がわからず、帰れなくなったのでシェルパ 2 人をつれて探しに行く。6 : 45-7 : 10 ころ中型コウモリ (キクガシラ?) と小形 (イエコウモリ大またはそれより小) コウモリが多数飛んでいたが採集できず。

29 (月) : Modi Khola. 北斜面下部の高木林 (涸沢) にて *Suncus* 1<sup>(19)</sup>、*Mus* 1<sup>(20)</sup>、*Apodemus* 様ネズミ 1<sup>(21)</sup> 採集。河畔の岩地では 0。今日は渡辺君の体調を整えるため一日停滞。昆虫採集や鳥の観察。モンキアゲハ、アオスジアゲハ様のものなどが見られたが、採集できず。Modi Khola 付近にはヤマセミ、カワセミ、カワガラス、セグロセキレイ sp、大型で黒くて白い斑点のあるセキレイ、腹が赤褐色、頭黒、頭頂白のイソヒヨドリに似た小鳥、大型の黒いツグミ (嘴橙色)、Yellowcheeked Tit など。またカヤの草刈り場で、ごく小さな鳥で胸からのどにかけて赤、体は褐色の鳥の巣を発見。カヤの 30cm 位の高さにクモの糸で禾本科草本の葉を編んだ巣を作りかけていた。セッカの巣の形に似る。このカヤ刈場にワナ 15 個をかける。ここは 35 度の急斜面 (北斜面) で、カヤその他の草が比較的密生した部分 (特に岩のごろごろした部分) があり、そこにかけた。また Modi Khola 河畔のハンノキ林 (川岸の岩地) に 18 個のワナをかける。下草はシダ、コケなど。2 時頃にわか雨あり。夕方にもばらばら雨がある。夜 7 : 00-7 : 20、比較的大型 (Garden Inn で取ったものよりやや大型) のコウモリ、中型キクガシラコウモリ大、小形のコウモリなどが飛んだ。網を張ったがかかりそうにない。昼、タンチョウ大の頭部の白いツルが飛翔しているのを見る。このような谷間でツルを見るのは珍しい。

30 (火) : Modi Khola-Ulleri. Modi Khola のキャンプを引き上げ、7 : 20 出発したが、渡辺君は体調が思わしくないので、Pokhara へ引き返していった。シェルパー人 (ミンマ)、ポーター 2 人をつける。Modi Khola 河畔にて *Rattus* 2<sup>(22)</sup>、*Suncus* 2<sup>(23)</sup> を採集。斜面カヤ刈場では 0。河畔林は乾燥しているが、すぐ横に川があるため比較的ネズミが多いのだろうと思う。キャンプ地の 200-300m 下にある吊り橋を渡り、支流沿いに登る。この支流は本流の、灰色に濁った水と異なり、きれいな清流で、所々に淵があり、魚も見られる。ヤマセミ、カワガラス、大型の黒色セキレイ。しばらくこの支流の左岸をだらだらと上るが、途中でヤマムスメ数羽をみる。1200m 付近の斜面林にて Common Langur 約 15 頭の群れを見る。木の葉を摂食していた。大きな♂ (ボス)、若者数頭、♀は子を連れているのが多い。ジュウシマツ 15-6 羽の群れ。その後耕作地の斜面を横切り、10 : 30 Hirre 部落 (1450m) につき、ここで昼食。田んぼの上で chapatti を焼いて食べる。焼きたての chapatti は結構いける。この部落を過ぎ、近くの林で Rhesus monkey のやはり 10 数頭の群れが道を横切って谷川へ降りてゆくのに出会った。1500m 付近には木イチゴの黄色い実が熟し初めているので、これを食べに集まったものと思われる。これを過ぎてしばらくだらだら登り、その支流を渡る。この付近で大黒セキレイ、体暗色、尾赤褐色のヒタキをみる。

川を渡ると急斜面にとりつき (東斜面)、これを 2000m まで登った部落 (Uleri) に 2 時過ぎ着、キャンプ。この急斜面の登りで、にわか雨に遭う、最初はヒョウ混じり。2000m にもなると雨が降れば大変寒く、17℃位。この部落の上部には 50m x 7-80m の竹藪 (広葉樹も含む) があり、中央にほこらがあって、この竹藪の周りは石垣で囲われ、家畜は入れないようになっているほか、人もほとんど入った形跡がなく、落葉の堆積も大変厚い。イタチかテンの糞があり、また鳥を食った後もあった。またネズミがドングリを集めて食った跡や、落葉層 (厚いところでは 10-15cm) 中にトンネルが多く見られるのでネズミもかなりいるらしい。ワナ 35 個、トラバサミ 2 個をかける。正富さんが空き地にカスミ網をかける。夜 7 時頃観察したところ、小型コウモリが飛んでいたが、網にはかからない。夜は冷える。夕方キャンプ地 (畑の中) から Annapurna 南峰が一瞬見えた。

5 月 1 (水) : Ulleri-Gorapani. 昨日かけたワナでは何もとれず。朝最低気温 11℃。6 時、13℃で涼しい。6 : 50 Uleri 部落のキャンプ地を出発。この付近の耕地にはカッコウ (日本と同じ)、カッコウ sp、Common myna、Drongo、カラス、ハゲワシ (大型)、濃いオリーブ色のツグミ大の鳥 (プチューイーと啼く)、背ルリ色の小鳥、フィンチ (♂頭赤、♀オリーブ)、その他多くの種類の小鳥が見られた。2150m 付近で羊の死体に多数のハゲワシが集まり、木にとまっているのが見られた。2200m 位から Rhododendron の大木を中心とするジャングルとなり、木にはコケや地衣が付き、また湿気も多くて大変良い林である。同じような林が 2800m 位の峠まで続いている。2250m 付近、シャクナゲジャングル中にて落葉中のゴマガイ、ムシオイガイなどの貝類を採集。低いところではシャクナゲの花は終わっているが、2700m 付近では一部花を残しているものもある。2350m 付近のジャングルで Common langur の 10 数頭の群れを見る。

(19) *S. murinus* ジャコウネズミ ♀【57274】。

(20) *M. cervicolor* クチバハツカネズミ ♂【57335】。

(21) *Niviventer fulvescens* ヒマラヤクリゲネズミ ♂【57429】。

(22) *R. rattus* クマネズミ ♂【57524】および ♀【57525】。

(23) *S. murinus* ジャコウネズミ ♂【57275】、【57276】。

2480m のシャクナゲジャングルを切り開いたところに人家 3 軒があり (10:35 着)、ここで昼食。12:00 出発、ここでも 1 頭の大きな Langur を見る。今日も昼頃から曇り、ぱらぱら雨が降る。約 1 時間 10 分歩いて Gorapani (2730m) に到着 (13:10 着)、ここでキャンプ。ここに着いてすぐひどい雨に見舞われる。Pokhala を出てから毎日午後になると雨が降り、天気の良いのは午前中だけで、午後には必ず雨が降っている。今日は午後ずっと雨が降り続けている。Gorapani はヒルがものすごく、ネズミのワナかけは全く大変である。1 個ワナをかける毎に 3-4 匹のヒルが靴に付着するので、それを落とすのに大変時間がかかる。2400m 付近から上はほとんどシャクナゲの純林で、Gorapani では純林中の溪流沿いにワナ 55 個をかける。木の根の間や川岸の水で削られてオーバーハングした下側、岩の間など。

2 (木): Gorapani-Tatopani. 朝 6 時 7℃、最低 6℃。昨日かけた溪流沿いのワナで Soricidae 2 頭<sup>(24)</sup>、マウス 2 種 4 頭 (A 種 1<sup>(25)</sup>、B 種 3<sup>(26)</sup>)、vole 1 種 2 頭<sup>(27)</sup>、Soricurus 1 種 3 頭<sup>(28)</sup> を採集。Soricidae の個体は珍種らしい。他の隊員らは朝 7 時頃出発したが、標本作製のため小生のみ出発を遅らせ、10 時までかけて剥製を作る。シャクナゲ林の中は湿気もあり、小動物にとっては好的な生息地である。Gorapani から 40-50m 登ると峠で、それから 2400m 付近まではシャクナゲジャングル中の下り道、こちら側のシャクナゲは真紅の花をつけており、Gorapani 付近のうす桃色の花 (すでに終わっていた) とは異なる。2480m 付近のシャクナゲ林中の朽ち木でキセルガイを採集。2400m 付近 (北側) から林が切り開かれて部落となり、2000m 付近の Shika 部落で昼食。ここは宿場らしく、またチャン (茶) なども売っている。このすぐ下の Shika ghara 部落は薄い石版で屋根を葺いており、壁も石積みで、なかなか良い家並みである。また、この部落では各家で養蜂をやっており、石づくりの家の屋根に大木をくりぬいて小窓を作ったミツバチ箱や、家の横窓にミツバチの入り口を作ったものなどがみられ、養蜂はきわめて盛ん。我々も 5 ルピー出して密を買った。この下に Ghara 部落があり、この付近では White scavenger vulture、White cheeked bulbul、カッコウ (日本と同種)、Common myna、ニュウナイスズメなどを見る。スズメは Tree sparrow のみ、House sparrow は全く見ない。この東斜面 (耕地) をだらだらと長距離、北へ向かって歩き、ガンダキ川河畔 (1220m) まで降りる。降りたところの休み場付近で初めてゾウの群れに出会う。だいぶツクチェに近づいたことを知る。Gandaki 川沿いに上流へ約 1km 登った河岸段丘上でキャンプ (Tatopani) (4:45 着)。この段丘上、崖下の小灌木、シダの生えた、じめじめしたところ (岩の間) にワナセット、また Gandaki 川沿いの岩がごろごろしてシダの繁茂したところにもワナセット。今日はキャンプに入る少し前からぱらぱらと雨が降り始めた。昨日までよりやや遅い。夕方の温度は 22℃で、標高が低いので、かなり暖かい。夕食はチキンカレーでうまかった。朝食は毎日米飯とダルスープ。昼はチャパティである。昼食はチャパティがよい (腹持ちが良いため)。

3 (金): Tatopani-Ghasa. Tatopani のガンダキ川河畔崖下の灌木—シダ中にかけてのワナで Rattus 2<sup>(29)</sup>、Suncus 2<sup>(30)</sup>、Mus 1<sup>(31)</sup> を採集。どうも比較的低い地域の農耕地や川辺ではこれらの Rattus、Suncus、Mus の 3 種がどこにも棲んでいるようである。7:00 ここを出発、ガンダキ川を上流へ上る。川岸の斜面をトラバースしながら少しずつ高度を上げ、9:30 Dahna 部落に着く。ここにはチェックポストがあり、ネパール国内パスポートの提示を行う。ここを過ぎ、Rhukuche Khola で昼食。ここでツクチェから Dahna に向かう post runner に出会う。週一回の配達だという、後山さん写真を撮る。昼食後 Suncus と Mus の標本を作り、1 時頃出発し、先発の隊員に追いつき、その後長い距離をだらだらと登り、4 時頃 Ghasa (2080m) に到着。Ghasa の部落に入ると家の作りが急に変わり、石造りの平屋根となつて、屋上では収穫したムギ (ちょうど収穫が終わったばかり) の脱穀を行っている。屋上へは一本の丸太に足がかりを作ったハシゴで登るようになっている。Tatopani を過ぎ Gandaki 川を上流へ進むに従って、風景はだんだん荒涼としてきて、木はほとんど無くなる。しかし Ghasa 付近に来るとゴヨウマツの高木林が一部にあり、その他、細い

(24) *Episoriculus caudatus* ホジソンケムリトガリネズミ ♀【57075】および *Episoriculus macrurus* オナガケムリトガリネズミ ♂【57123】。

(25) *Niviventer eha* ハイバラクリゲネズミ ♂【57373】。

(26) *Apodemus gorkha* ヒマラヤアカネズミ ♀【57552】、【57553】。1 点はネパールに寄贈。

(27) *Neodon sikimensis* シッキムハタネズミ ♂【57568】、【57569】。

(28) *Soriculus nigrescens* チビオケムリトガリネズミ ♂【57129】、【57130】および ♀【57128】。

(29) *Rattus pyctoris* トルキスタンクマネズミ ♂【57489】および *R. rattus* クマネズミ ♀【57526】。

(30) *S. murinus* ジャコウネズミ ♂【57277】および ♀【57278】。

(31) *M. cervicolor* クチバハツカネズミ ♂【57336】。

ササの密生地も所々にある。東向き斜面にある滝の下から谷川沿いの竹林中にワナをかけ、他の45度の斜面のヒース状の放牧地、一部岩礫地、小灌木疎生地にもワナをかける。今日の昼食はソーメンであったが、行動中の昼食にソーメンは不適である。すぐ腹がへってどうにもならない。一同 Ghasa についたときは腹ペコで、現地人の食べもの、シェルパたちが昼食にした残り物をつまんで食べる始末である。今日は夕食時になって少し雨が降った程度、ツクチェに近づくに従って雨の量も、降る時間も少なくなる。

4 (土) : Ghasa. 昨日ワナをかけた45度の斜面の小灌木疎生地、岩礫地(乾燥) —馬、牛、羊の放牧地—では *Rattus* sp 1<sup>(32)</sup> と *Mus* の尾のみ1を採集。滝下流の溪流沿いのワナでは、滝下の水のかかる湿度の高い草地(被度100%、落葉5cm、密度大)で *Soricurus* 1<sup>(33)</sup> を採集。この付近には縦横にトンネルあり。これより下流、川沿いの笹藪(乾燥、ササ叢生地以外何ものなし、川沿いの一部にシダあり)で *mouse* sp (腹白) 3頭<sup>(34)</sup> 採集。どうも農耕地や放牧地付近では *Rattus*、*Mus* がどこでもとれ、低地ではこれに *Suncus* が加わるというのが一般的であるらしい。今日一日は Ghasa 停滞。滝下の湿った落葉中にてゴマガイを採集。この付近の鳥類、Black-headed shrike、日本のものに似たシジュウカラ(キャンプ地の学校校舎の石壁の隙間に営巣、親を採集)、背空色、腹白(♂)のノビタキ、日本のものにきわめて似たノビタキ、White cheeked bulbul、ニュウナイスズメ、♂赤、♀オリーブの finch、黄緑の小形ウグイス sp、フクロウ sp、大型黒色に白斑のセキレイ、キセキレイ、黒色黄色嘴の大型ツグミなど。スズメは Tree sparrow のみ。今日は一日雨なし、夕方少し曇った程度。

5 (日) : Ghasa-Tukuche. 滝下溪流にかけたワナで昨日と同種のマウス<sup>(35)</sup> を採集。このネズミは日本の *Apodemus speciosus* に似た生活をしているらしく、川辺の竹藪でよくとれた。7:00 Ghasa を出発、最終目的地 Tukuche に向かう。Ghasa の上下両端の村はずれには最下層のカーストの靴屋が店を開いており、下の方はテント、上流の方は岩陰で4人の職人が大変頑丈な革靴を作っていた。Ghasa を出てまもなくゴヨウマツの林間から雪山がよく見えるようになる。2350m 付近のササ、広葉灌木林中の落葉中にてゴマガイ、ムシオイガイ、毛のある貝などを採集。この付近で珍しいセリチョウ、ヒョウモンチョウを採集。また日本のものに似た腹の薄茶色のゴジュウカラ、シジュウカラなどを見る。Kari Gandaki 川を上流に上るに従って、正面に Dauragiri、背面に Annapurna のすばらしい眺めが広がる。川に沿って上り、Karapani で昼食。今日はジャガイモを煮たものに塩、バターをつけて食べる。札幌ではとても食べられないようなものであったが大変うまく、大量に食べる。ここから Annapurna がよくみえる。これを過ぎ、しばらく上ると Kari Gandaki 川の広い河原にでる(2500m)。この河原を歩き、左斜面をトラバースするところからゴヨウマツのほかにはツガ類が現れる。この林を通り抜け、再び広大な河原を歩くこと約30分で Thak Larjung 着。これから更に1時間ほど歩くと Tukuche の街に着く。Thak Larjung の対岸(左岸)には針葉樹の良い林があるが、右岸(東斜面)には木がほとんどなく、人家が多い。Karapani あたりからオオムギは青々としており、かなり収穫期が遅いことがわかる。Ghasa ではオオムギの収穫最盛期で、半分以上が収穫済みであった。Thak Larjung の少し上流右岸の岸壁で太短いキセルガイ2種を採集。この岸壁は大変乾燥しており、植物もほとんど無く直射日光のよく当たるところで、そのような岩にこれらの貝が付着していた。Tukuche の街並みは大変きれいで、ムギの収穫前でもあって、Ghoa のように路に穂のイガが散らばっていないので石畳がきれいである。麦畑を囲った石垣沿い、近くの谷川沿いなどにワナをかける。しかしネズミのいそうなところは大変少なく、ワナかけ場を探すのに苦労する。谷川沿いも羊、ヤギなどによって草が食い尽くされ、あるのはトゲのある小灌木ばかりで、あらゆる木にトゲがある。今日もしばらばらと雨が降った程度でほとんど雨なし。前にニルギリ山、後ろにダウラギリ。

6 (月) : Tukuche. 朝6時、最低11℃、最高15℃。昨日かけた川沿いの灌木下のワナではネズミ0、麦畑の石垣沿い(近くに溪流あり、灌木疎生、被度80%、密度小、下草なし)にて *Rattus* 1<sup>(36)</sup>、*mouse* sp 1<sup>(37)</sup> を採集。ただし *mouse* は何かに食われ、頭部、尾部のみ残。本日も同じような麦畑沿いの石垣、および段々畑(ムギ)の山側壁下のタデその他の草本、小灌木の下にワナをかける(被度80-100%、密度中、乾燥、落葉ほとんど無し)。また半沙漠状斜面、トゲのある小灌木疎生地にもワナかけ。Tukuche には日本のものに似た植物が多い。タデ、キク科、ス

(32) *R. pyctoris* トルキスタンクマネズミ ♂【57490】。

(33) *S. nigrescens* チビオケムリトガリネズミ ♀【57131】。

(34) *N. fulvescens* ヒマラヤクリゲネズミ ♂【57430】、【57432】および ♀【57431】。

(35) *N. fulvescens* ヒマラヤクリゲネズミ ♀【57433】。

(36) *R. pyctoris* トルキスタンクマネズミ ♂【57491】。

(37) *A. gurkha* ヒマラヤアカネズミ ♂【57554】。現存標本も胸部が大きく欠損している。

ギに似た(ビャクシン?)木など。また鳥にも似たものがある。日本と同種と思われるホホジロ(多)、ノビタキ(多)、ハシボソガラス。このほか大型のタカ、♂赤のフィンチ、モズ、ハクセキレイ、Tree sparrow、嘴の赤いカラスなど。東斜面の半砂漠状、トゲのある小灌木疎生、乾燥地の岸壁では昨日採集した太短いキセルガイがとれ、また小灌木下や礫に付着したより小形の太短いキセルガイがとれる。小灌木下の落葉中にて微小マイマイ、樽状大形ゴマガイ、ムシオイガイを採集。いずれもきわめて乾燥したところにおり、面白いものらしい。いずれも休眠中。今日も雨なし。午後一時曇ったときがあった程度。Nilgiri、Daulagiri がきれいに見える。天気が良いので日当りは比較的暖かいが、風がきわめて強く、あらゆる沢を一日中吹き抜け、氷河から吹き下ろすため大変冷たい風である。半袖シャツでは寒くていられない。川で手を洗って風で乾かそうものなら、手がしびれるほど痛い。後山、松村はカルマをつれてジョムソンまで日帰り旅行をする。警官に捕まってパスポートが Tukuche までだからだめだと言われ、ジョムソンの近くで引き返す。今日は羊を一頭買い(150Rs 余)、夕食はジンギスカンで満腹。シェルパはポーターを使って大量の本物の腸詰めを作る。いずれもうまい。

7 (火): Tukuche-Thak Larjung. Tukuche 麦畑石積囲い沿いにかけたワナにて Ruttus (norvegicus?) 3 頭<sup>(38)</sup> 採集。9 時 Tukuche を出発、すぐ下流の Thak Larjung の対岸にある針葉樹林林縁でキャンプ。昼食はキャンプ地とする。Tukuche の街を出た河原で、馬の大キャラバンに出会う。Daulagiri を入れて写真を撮る。その他、Tukuche 付近の半沙漠地やその植物の写真を撮る。Larjung 対岸の針葉樹林はゴヨウマツ、ツガ、ビャクシン、イヌガヤ sp などの喬木林(高さ 15-20m)で、低木はほとんど無く、常緑の小灌木がわずかに(被度 10%)生えているのみ。草なし。林内は非常に乾燥しているが、ここの、主として倒木横にワナ 20 個セット。また、林縁には湿地があり、林縁部の倒木横や木の根元に 27 個をセット。また、針葉樹林内の朽ち木にてゴマガイ 2 種を採集。朽ち木の下には薄いカラをもったつやのあるマイマイ、小さな腰の高いマイマイなどを採集。湿地にはモノアラガイがいる。森林の鳥、カッコウ、ツツドリ、ヨタカ、ホンガラス。

8 (木): Thak Larjung-Ghasa. 昨夜は大変冷えた。最低 3℃、6 時 5℃。針葉樹林内にかけたワナにて Gorapani のシヤクナゲ林でとれたのと同じマウスが 2 頭<sup>(39)</sup> とれ、林縁湿地付近にて同じく Gorapani でとれた Soricurus 1 頭<sup>(40)</sup> がとれた。Crest の非常に長い小形カラを見る。9 時にここを出発、Ghasa に向かう。来るときと同じく、Karapani で昼食。ここの少し下の Lete 部落のマツ林(ゴヨウマツ Pinus Griffithi 多、Tsuga sp、Taxus を含む、高さ 15-20m の疎林、下草ほとんど無く、被度小さく、陽光は下まで通るのでよく乾燥している)で大型マイマイ 2 種、小型マイマイ 2 種を採集。いずれも倒木または石の下にて休眠中のもの。特に最も大きい口の部分に黄色の線のあるマイマイは付着している力がきわめて強く、枯れ木に付着しているものを無理にはがすと木の皮がとれてくるか、または貝自体が壊れるほどであった。この付近で嘴の橙色をしたカラスの群れ、20-30 羽をみる。松村はこの付近でウスバキチョウを一頭捕獲、珍品。4 時半頃、Ghasa 着。オオムギの収穫がすべて終わっており、穂だけしごきとった麦畑には馬、牛などが放牧され、一応食われた後は火をつけて焼いている。その際、畑の囲いの小灌木類(バラ、トゲ植物)も焼かれるので、石囲いなどもきれいになる。麦畑周辺のこれらのブッシュには、ネズミがムギの穂を持ち込んで食った後がかなり見られた。滝の下(シダ、アザミなどあり)に 2 個、川辺竹林に 10 個、収穫後の麦畑周辺に 9 個のワナをかける。夜 9 時過ぎでもコウモリの飛翔を見るが、川の上にはった網にはかからず。ここまで下りてくると比較的暖かく谷の水で身体を洗ってもあまり寒くない。

9 (木): Ghasa-Tatopani. 晴れ。Ghasa 滝の下、シダ、アザミなどの生えた、湿ったところにてアカネズミ様マウス 1 頭<sup>(41)</sup>、谷川沿い、竹藪内の陰湿なところで Soricurus 1 頭<sup>(42)</sup>、収穫直後のオオムギ畑周囲の石積囲い沿い(イラクサ、竹疎生)にてアカネズミ様マウス 1 頭<sup>(43)</sup>、Mus 5 頭<sup>(44)</sup> 採集。この付近では麦積を食った跡が多数見られた。7:00 村はずれの最下層カーストの靴屋(テント住まい)にてネパール靴(厚い皮でできたゴツイ靴)を 1 足

(38) *R. pyctoris* トルキスタンクマネズミ ♂【57493】および ♀【57492】、【57494】。

(39) *A. gurkha* ヒマラヤアカネズミ ♂【57555】および ♀【57556】。

(40) *S. nigrescens* チビオケムリトガリネズミ ♂【57132】。

(41) *N. fulvescens* ヒマラヤクリゲネズミ ♂【57434】および ♀【57439】が本個体と後掲注(43)の個体に該当する。

(42) *S. nigrescens* チビオケムリトガリネズミ ♀【57133】。

(43) 前掲注(41) 参照。

(44) *M. cervicolor* クチバハツカネズミ ♀【57337】、【57338】、【57339】、【57340】、【57341】。

15Rsで買う。7:30 出発、9:00 には昼食場所 Rukuche Khola の滝の下に到着。ここで昼食前に標本作製。滝下でラクパがすばらしい2頭のタテハチョウを採集。12:00 出発、3時前にキャンプ地 Tatopani についた。Ghasa-Rukuche Khola 間には部落は少なく、一部に *Alnus* の林などもあって鳥も比較的多いが、Rukuche Khola (1600m) 付近から下はほとんど農耕地となっていて、この付近まで水牛が見られた。Rukuche Khola-Tatopani 間は非常に長いだらだら路のコースで、休み場がほとんど無く、また木もほとんど無いため大変暑い路であった。途中にはクズに似たきわめて大きな葉をつけるマメ科の植物（現地では食器代わりにこの葉を使う）があり、花をつけ初めているところ。この農耕地に入ると *Common myna* が現れる。Tatopani のキャンプ地付近で結婚式の一行に出会う。ヨーロッパ中世の長いラッパに似た楽器を吹き鳴らしながら進行、花嫁はおぶさって白いベールで顔を隠している。キャンプ地付近は最近雨が降っていないらしく、行きの時よりずっと乾燥している。そのためか大変暖かい。夜にはキャンプ地の前でホテルが多数舞う。キャンプ地である Kari Gandaki 川の河岸段丘上の更に上の段の壁からわき出る湧水があるが、その水の落ちるところ 30cm 四方くらいの水たまりの中で小型のドジョウを採集。ここの上の段はトウモロコシ畑で、その水場から Kari Gandaki 川の河床までは 5-6m の高さがあり、川岸に急に落ち込んでいるので、この川から上ったとは考えられず、また上から下ってくるような河道は全くないように思われる。もしこの水だけで世代を繰り返しているのであれば面白いものであると思われる。今日このキャンプ地ではワナを全くかけず、休養。下る途中、Dhana で久万田らが *Muntjak* の子を 25Rs で買ってきたので皮と頭骨の標本<sup>(45)</sup>をとり、体部分は明日のご馳走とする。Tatopani の少し上で Tukuche で採集した小さい方のキセルモドキと同じものの死貝を拾う。

10 (金): Tatopani-Chittra. Tatopani 7:00 発、約 1km 川沿いに下ったところで急な斜面を登り、一つの尾根を越えると、あとはだらだら道を少しずつ上り、Ghara, Shika-ghara を過ぎて Shika 部落 (10:30 着) で昼食。1時過ぎここを出て再び耕地の斜面（ほとんど木なく、陰なし）をだらだら登って 2400m のシャクナゲ林、林縁部にある Chittra でキャンプ。ここはシャクナゲ林の下部林縁になっており、谷川沿い、石のかげ、土のオーバーハングしたところの下側などにワナをセット。喬木林は疎林で、赤い花をつけるシャクナゲ *Rhododendron arboreum* (一部花あり)、ウバメガシ *Guercus semicarpifolia* などからなり、下草はほぼ完全に家畜に食われているため、林床は開けている。他に、収穫後の麦畑沿いにワナセット。ここには一部バラ、イラクサなどのブッシュがあるが、他は石垣のみ。カスミ網でハイタカ、ヨタカ採集。コウモリが飛んでいるがとれず。夜は大変寒い。

11 (土): Chittra-Ulleri. 昨夜は最低 3.5℃まで下がった。シャクナゲ林溪流沿いにかけたワナで *Soricidae* 1 (*Soriculus caudatus*)<sup>(46)</sup>、*Soriculus nigrescens* 7<sup>(47)</sup>、下流林縁部でアカネズミ様マウス 2<sup>(48)</sup>、上流林内にてグレーのマウス (*Gorapani* で採集) 1<sup>(49)</sup>、畑周辺石垣にて *Suncus* 1<sup>(50)</sup>、山側崖下にて *Soriculus nigrescens* 1<sup>(51)</sup> 採集。Chittra 7:30 出発、歩きづめで 2850m のシャクナゲ林内の峠 (*Gorapani*) を過ぎ、約 30 分下ったシャクナゲ林内開拓地にて昼食 (9:30 着)。ここでネズミの標本作製。1時過ぎここを出発、ずっとシャクナゲ林を下って Ulleri 上シャクナゲ林、林縁部 (2250m) でキャンプ。先日通過したときは毎日雨が降っていたので、林内は湿潤で大変良い状態であると思っていたが、その後全く雨が降らないらしく、林内はどこもカラカラに乾燥していて、谷川の水量もずっと減っている。全くひどい乾燥ぶりである。行く時には落葉中にゴマガイなども多かったところに今日は全く見られなかった。キャンプ地横の溪流沿い (シャクナゲ、ウバメガシ類その他の喬木林でコケが多く、下草は家畜に食われて相変わらず少ない)。谷沿いの岩の下、オーバーハングした土の下などにワナをかける。川辺のやや湿った落葉中にてムシオイガイをかなり採集、ゴマガイは少ない。キャンプ地の少し上でミソサザイの一種を捕虫網にて採集。この鳥は尾がきわめて短く、無いように見える。驚かすと岩の間や草の下に隠れるので、それを捕虫網で捕らえたものである。夕方キャ

(45) 該当する可能性のある頭骨標本【61301】は北海道大学植物園・博物館に所蔵されているが、情報記載のないまま管理されてきたため確たる証拠に欠ける。

(46) *E. caudatus* ホジソンケムリトガリネズミ ♂【57076】。

(47) *S. nigrescens* チビオケムリトガリネズミ ♂【57134】、【57135】、【57136】、【57137】、【57138】、【57139】および ♀【57140】、【57141】の8点が同日採集標本。後掲注 (51) の個体が含まれる。

(48) *N. fulvescens* ヒマラヤクリゲネズミ ♂【57441】および ♀【57440】。

(49) *A. gorkha* ヒマラヤアカネズミ ♂【57557】。

(50) *S. murinus* ジャコウネズミ ♀【57279】。

(51) 前掲注 (47) 参照。

ンブ地から Machapuchari の 2 突起がよく見えた。Chittra の少し上のシャクナゲ林でラングールを見る。

12 (日) : Ulleri-Biratanti. Ulleri 部落上シャクナゲ、ウバメガシ林中の、谷川沿いのワナ (岩ノ下、オーバーハン  
グした土の下側、草はほとんど無し、ただし被度 100%) にて *Soricurus nigrescens* 3<sup>(52)</sup>、*S. caudatus* 1<sup>(53)</sup>、アカネズミ  
様大型マウス 1<sup>(54)</sup>、灰色マウス 1<sup>(55)</sup> を採集。この林は高さ 5-20m のシャクナゲ、ウバメガシなどの他にスイカズ  
ラに似た花をつける灌木も多い。下草は家畜に食われて非常に少ないが、シダが川辺に少し生え、コケが多い。川  
筋のみ湿潤。川から少し離れるときわめて乾燥。キャンプ地で標本製作。8:30 皆より遅れて出発。シャクナゲ林  
を出て Ulleri 部落上部の耕作地 (2180m、40 度くらいの斜面に作られた畑で、ジャガイモが 15-20cm にのびている)  
の中にある 40 x 40m 位のガレ場にてナキウサギ観察。一頭は成体で大きく、色は赤褐色 (大雪山の成体に似る) であ  
ったが、他の一頭はやや小さく、黒味が強かった。この個体<sup>(56)</sup>を、近くで切り取った竹の先につけたテグス輪でつ  
り上げ採集。また、この個体は 2 回ブチツ ブチツと啼いたが、成体の方は全く啼かず。ここで 9:00-10:00 観察、  
採集。Ulleri 部落の急斜面 (45 度以上) を 30 分ほどかけて下り、少し歩いたところで昼食。Modi Khola の支流 (清流)  
沿いに下り、Modi Khola に合流する少し上の Biratanti でキャンプ。河畔のハンノキ林にワナをセット。10 個はシダ、  
イラクサのブッシュ、他の 22 個は岩の下、崖下にかかる。夕方キャンプ地上空を中型、小型のコウモリが飛んだの  
で長柄の捕虫網で採集を試みたが、網が 1 頭に当たり、それが体につけていた幼体<sup>(57)</sup>のみ網に入った。親は不明。  
近くで山火事があり、仕掛け花火のごとし。9:25 柄長捕虫網にて小型コウモリ (Pokhara で採集したものと同じ)  
1 頭<sup>(58)</sup>をたたき落とす。

13 (月) : Biratanti. Biratanti 停滞。朝 8 時頃、川の対岸斜面 *Alnus* 林中を一頭の Himalayan Yellow-throated  
Marten、*Martes flavigula* が上流へゆっくりトラバースしてゆくのを観察。後で上流の滝の下、河岸段丘上の大き  
な岩の付近を調べた結果、その岩の下に巣があるらしく、よく通るらしい路がいくつもあり、この岩の近くには  
Porcupine の針や Rhesus monkey (?) の全身骨格 (頭骨のみ採集<sup>(59)</sup>) などが散らばっていた。多分このテンが捕食  
したものと思われる。昨日かけたワナの中、畑の溝沿い (イラクサ、シダ、ヨモギなど密生、被度 100%、密度大、  
落葉ほとんど無し) で腹白の *Rattus* 1<sup>(60)</sup>、*Suncus* 1<sup>(61)</sup> 採集。Modi Khola 支流 (清流) 沿いの岩の間 (ハンノキ疎生、  
木性黄イチゴ疎生) でドブネズミ様 *Rattus* ad 1、juv. 5<sup>(62)</sup> 採集。川より少し斜面を登ったカシ、ハンの生えた湧水 (少量)  
のあるところで *Suncus* 1<sup>(63)</sup> 採集。昨日もやっていたが、今日も部落の人が多数出て、川の一部をせき止め、流水を  
少なくしたところに、ある種の木の子葉や枝を石でたたいて砕いたものを入れ、その液汁によって弱って浮上した魚  
をとっていた (日本でやる方法に似る)。魚は 3 種あり、ウグイ様、ギバチ様、カマツカ様でいずれも口が下側に付  
き底生魚であるらしい。昨日はキャンプの前で取ったもの 3 種 3 匹とボールペン 1 本と交換してもらい標本とする。  
今日は川沿いの岩の間 (斜面上は *Alnus* 林、林床開) にワナ 15 個セット。テンの巣の近くにトラバサミ 2 個セット。  
夜 7:05 より小型コウモリが飛び始めるがとれず。今日は 3 時頃に小雨があった。

14 (火) : Biratanti-Swinket. 朝 7 時キャンプ地対岸の *Alnus* 林中を巣に帰る 2 頭の Himalayan Yellow-throated Marten  
を観察。どうも毎日滝下河岸段丘上の岩の下に巣を出て、下流 *Alnus* 林の川沿いの方へ採餌に出かけ、朝 7-8 時頃

(52) *S. nigrescens* チビオケムリトガリネズミ ♂【57142】および ♀【57143】、【57144】。

(53) *E. caudatus* ホジソンケムリトガリネズミ ♀【57077】。

(54) *N. fulvescens* ヒマラヤクリゲネズミ ♂【57442】。

(55) *A. gurkha* ヒマラヤアカネズミ ♂【57558】。

(56) *Ochotona roylei* ヒマラヤナキウサギ ♂【57605】。

(57) この個体は標本として残されていない。

(58) *P. javanicus* パプアブラコウモリ ♀【57646】。標本の採集日記載は翌 13 日である。12 日深夜に捕獲し、13 日に標本作製  
したためこの日付となっている。

(59) 所蔵標本に該当なし。

(60) *R. rattus* クマネズミ ♂【57534】、【57535】、【57538】および【57527】、【57531】、【57536】、【57537】の 7 点が Biratanti  
で採集された標本。後掲注 (62) の 6 個体が含まれる。

(61) *S. murinus* ジャコウネズミ ♂【57281】および ♀【57280】。後掲注 (63) の個体が含まれる。

(62) 前掲注 (60) 参照。

(63) 前掲注 (61) 参照。

巢に帰るものらしい。トラバサミにはかからず。川沿い斜面下部岩の下にかけたワナにて *Suncus* 2<sup>(64)</sup>、*Mus* 1<sup>(65)</sup> を採集。朝標本を作った後、7:40 皆より遅れて出発。やや川を下って Modi Khola にかかった吊り橋を渡り、行きの時のキャンプ地横を通して *Alnus* などからなる林中の急斜面を高度 500m 位登る。途中 Machapchari や Annapurna が霞の中ではあるが、はっきりその全景を見せる。久万田スケッチ。写真は霞のため無理のようであった。ここを登ると後はだらだら路で尾根や斜面をトラバースする長い道が続く。途中はもっぱらチョウの採集をする。この付近一帯は農耕地で、Lamle 部落を過ぎ少し広葉樹林の残った峠付近で昼食（行きの時同様）。これを過ぎると再び農耕地の斜面をトラバース。斜面全体を段々畑にした風景はすばらしい。南の方にポカラの湖がよく見える。ここから Swinket 川に下ったところの広葉樹林 (*Schima castanopsis indica*) 下部（河原に近いところ）にキャンプ。行きにテンを見たところに案内してもらい、テンの通路らしいものを見つけてトラバサミ 2 個をかける。また、斜面谷間の岩の下やオーバーハングの下側にワナ 20 個セット。夕方キャンプ地にてコウモリが飛んだので捕虫網で 1 頭<sup>(66)</sup> 採集。ポカラでとれたような小型種であるが、種類はいままで採集のものとは異なるらしい。夕方雷と共に夕立があり、林中ではヒルが多数出現。ワナかけに苦労する。広葉樹林にはどうもヒルが多いらしく、少しでも雨があると一斉に出現する。

15 (水) : Swinket. 昨日かけた *Quercus*、*Castanea* などの林中の谷沿いのワナにて *Suncus* 1<sup>(67)</sup>、森林中のトラバサミにて *Rattus* 1<sup>(68)</sup> を採集。また、この溪流（上流にはかなり水が流れ、所々に淵があるが、下流では水が全くなくなる）にて縞のあるドジョウを採集。溪流横の水から離れた岩の下でサワガニ様のカニ採集。今日はほとんど一日中チョウの採集を行う。4 時半頃から雷と共にぱらぱら雨。カスミ網ではカケス類（尾が長く、眼先黒、頭頂灰色）、Yellow-cheeked tit 採集。夕食後ものすごい雨が降り、テントは水浸しとなる。シュラフ、エアーマットはびしょ濡れで、テントでは寝られないので茶店で正富さんと共に寝る。他の二つのテンとは一段高いところにあったので被害はやや少なく、テントで寝られた。雨のため、コウモリも全くだめ。谷沿いの斜面下部（広葉樹林、下草シダ）にかけたワナ 20 個。

16 (木) : Swinket-Pokhala. 斜面下部谷沿いのワナにて *Suncus* 1<sup>(69)</sup> 採集。20 日ぶりで Pokhala に向かう。Swinket の長い沖積地(水田)を 2 時間近く歩くと木 (*sal*, *banyan*, *mango*, *papaya* など熱帯樹の分布上限地) の多い部落 (Yangza) となり、この中の石畳の道をだらだらと下ってチベット難民部落の下で昼食。ここのわき水の出口に水へびの一種がいるのを発見。カエルを餌にして釣りを試みたが、カエル 2 匹を食われただけでへびの採集はできなかった。エラブナギの一種か？ 多分珍種であろう。後日再び採集を試みたいと思う。ここを過ぎ、木のない川辺を少し歩くと Pokhala のバザールに入る。ポカラバザールは道路の両側に商店の建ち並んだ細長い街で、その長さは 1.5km くらいはあろうかと思われる。商店には様々なものが売られている。食料品、小間物、衣類、床屋、時計屋など。物価は高く、ドロップス小袋 1 個が 4Rs。ここを通過する途中から小雨が降り始めたが、昨日のような大雨にはならず。Pokhala では前と同じく空港横、Annapurna Hotel の庭にキャンプ。渡辺君の置き手紙では 6 日に Kathmandu に帰り、Gosainkund に行ったらいい。夕方コウモリ飛ぶが採集できず。Yangza 部落では小型のマングース (Small Indian Mongoose の若い個体らしい) を見る。20 日ぶりの Pokhala は緑の色がすっかり濃くなって前の新緑とは全く異なっている。バザール中の家の軒下に営巣していた小型アマツバメはすでに巣立っていた。Pokhala はやはり都会で、人の服装、顔立ちなども山の上の人よりはずっとこざっぱりしており、きれいに見える。夕食は Annapurna Hotel で 1 人前 10Rs の、このホテル最高の食事をとり、バナナのデザートまで出て満腹する。夜はホテルの庭でケラ（昆虫）が鳴いており、スコップで掘り出して採集。本日はワナかけせず。

17 (金) : Pokhala. Pokhala 停滞。午前中は Tukuche 旅行の標本整理。やはり Pokhala は暑い。しかし天気が良かったので頭骨標本もよく乾燥。午後はダム下流へウナギ釣りに行ったが全く釣れず。カニが 3 匹釣れたのみ。湖には口の細長い、歯をもったサヨリに似た魚がおり、子供が釣っていた。正富さんが鳥の肉を餌にしてかけたトラバサ

(64) *S. murinus* ジャコウネズミ ♂【57282】、【57283】。

(65) *M. cervicolor* クチバハツカネズミ ♂【57342】。

(66) *Myotis mystacinus* ホオヒゲコウモリ ♂【57636】。深夜捕獲のため標本の採集日は翌日の 15 日になっている。

(67) *S. murinus* ジャコウネズミ ♀【57284】。

(68) *R. rattus* クマネズミ ♂【57528】。目録では 13 日採集となっているが 15 日の誤り。

(69) *S. murinus* ジャコウネズミ ♀【57285】。

ミで White scavenger vulture がとれた。ワナかけはせず。明日よりベグナス湖へ4日間の旅行をするため荷物の仕分けを行う。夕方より小雨あり。7:30 頃やや強く降る。

18 (土): Pokhala-Rupak. 朝 5 時前に起床。まだ薄暗いが、カスミ網でコウモリ 1 頭<sup>(70)</sup> (新しい種) 採集。今日から Pokhala 東方のベグナス湖に行く。空港横のものすごく狭く、深く切れ込んだ溪谷を渡って、水田(乾田)中の路を進む。畦道の草は水牛、牛などによってなめるように食い尽くされ、ネズミなどは全くすめる状態ではない。鳥も非常に少なく、木のあるところで青いカケス、Drongo を見たのみ。川を渡り、部落(バザール?)を通る路を昆虫(チョウ)採集しながら歩く途中、松村君がツバメ 2 羽を捕虫網ですくい、カルマも Tree sparrow とツバメを網ですくい取る。また後山さんは家の屋根にとまっていたハト(カイバト?)を手でつかむ。Arkurpawa にて昼食。ここから再び水田(乾田)となり、現在まだ大部分は乾田であるが、2 頭引きの鋤で起こし始めたところである。ベグナス湖の近くの川でタニシ、カワニナ sp、巻貝などを見る。ベグナス湖畔にある小山を越えて二つの湖の接する付近に下りて、人家の小屋がけの下にキャンプ。3 時頃から雨が降り始め、ものすごい雷雨があったので、やむなく小屋の下にテントをはったが、きわめて快適。しかしこの付近は温度、湿度共に非常に高いため不快指数は非常に高い。このベグナス湖畔の北側は耕作されているが、南側には Quercus、Castanea その他の広葉樹林があり、その下部が一部開墾されて耕作地となっている。湖の林縁部に 15 個ワナセット。林内被度 100%、密度小、下床開、落葉 3-5cm。家畜放牧。ワナかけの部分は被度 50-70%。林縁ワナかけ部分下部は耕作地(作物なし)。ここには Rhesus monkey もおり、2-3 頭見る。またこの丘の部落付近のボダイジュ(小型イチジク様果実多数なる)の実を食いに Rhesus monkey が 10 頭集まっているのを見る。サルは農作物を荒らすためか、農民が盛んに畑から追い出しているのを 2 回見る。(農作物はアワ)。

19 (日): Rupak. ワナは雨のためすべてから落ち。午前中から 3 時頃まではきわめて良い天気であるが、3 時頃からものすごいヒョウ(2-3cm)を伴った雷雨となり、テントが飛ばされそうになる。山田先生、松村君などのテントは浸水のため寝られず、人家に移る。Rupak 湖畔には変わったチョウやトンボの類が非常に多く、特にトンボの種類は非常に多い。背ブルー、のど白、嘴赤のカワセミ、タゲリ的一种、後頭の黄色いキツツキ、コゲラ大のキツツキなど。林縁、湖畔、谷川沿いにワナ 15 個をかけるが雷雨のためすべてから落ち。雨期に来るときは大量のビニール袋が必要で、すべてのものをビニールに包まないと湿る可能性がある。とにかく雷雨の強さは猛烈を極め、一度に大量の雨が降るので水田や澗沢はたちまち濁流となって流れ、ワナかけも注意しないとワナが流されてしまう恐れあり。この二日間夕方から夜にかけての雷雨のため、ネズミは何もとれず。この調子ではこれからの雨期の採集が思いやられる。

20 (月): Rupak. 今日午前中はきわめて良い天気で、Rupak 湖でコイ 4 匹を釣る。Pokhala 湖にいたような細長い嘴の長い魚もいるが釣れず。ギバチ様の魚も 1 匹釣り上げ標本を作る。ガレ場の石の下でサソリ 2 匹、大型ヤスデ数匹。大型黒色サシガメ、マイマイ 2 種 6 個などを採集。3 時頃から定期便の雷雨が来る。大型黒色のコウノトリ(White-necked stork、首白、下尾筒から尾にかけて白)、タゲリ、白色の小型カモ、カイツブリ、クイナなどがみられる。広葉樹林内にて Muntjac 1 頭(角なし)を見る。カスミ網にて White-throated kingfisher 2 羽とる。この鳥は湖畔、水田地帯に多く、ヒリリリ・・・ヒリリリ・・・ときれいな声で囀りの最中である。森林内にもいるので樹洞に営巣するものらしい。正富さんは Rupak 湖対岸の林中にてバブラーの 1 種の巣を見つけ、夜、船で行って親と巣(ヒナ 2、無精卵 1)を採集。湖畔で 2m ほどのへびを発見したが捕獲できなかった。今日の雷雨はやや弱く、早く終わった。夕方コウモリの飛翔を見るため湖畔林縁にでてみたが、コウモリは全く飛ばなかった。久万田さんは湖畔でハンミョウを 6 種ほど採集。小生も湖畔で奇妙なカメムシの一種を採集。本種に似たものが海岸の珊瑚礁付近でもとれるという(奄美など)。

21 (火): Rupak-Pokhala. 朝 6:30 出発。再び Pokhala 空港横に帰る。途中、川辺(昼食)の断崖にチョウゲンボウが営巣しているのを発見、親が来る度にヒナが鳴いていた。Rupak 湖畔の山のボダイジュには Rhesus monkey が実を食べに集まっており(10 頭くらい)、ボダイジュの実(小型イチジク様の実)を盛んに食っていた。群れは 1 頭の大型♂(ボス)と♀親、小型サルが多いようであった。また畑の中で採食しているのも見られた(2 頭)。今日も途中の路で松村君はコシアカツバメ、小生は Tree sparrow をそれぞれ 1 羽捕虫網で捕らえる。マングースを見る。2:30 Pokhala 着。今日は山側の方で雷雨があったようであるが、Pokhala ではパラパラと降った程度。Rupak 湖

(70) *Miniopterus schreibersi* ユビナガコウモリ ♂【57635】。

畔林にて野鶏の鳴き声を聞く。正富さんは姿も見たし、カスミ網にみもかかりそうになったという。Pokhala では Annapurna Hotel の庭の石囲い沿い（上にハナキリンが生えているのみ）にワナ4個、倉庫外側に1個セット。夜コウモリ飛ばず。

22（水）：Pokhala. Annapurna Hotel 庭、石囲い沿いにて *Suncus* 2<sup>(71)</sup>、*Mus* 1<sup>(72)</sup>、倉庫横にて *Rattus* sp 1<sup>(73)</sup> 採集。8：00よりYangzaの湧水へミズヘビを採集に松村君と共に行ったが、全く頭を出さないで、正午過ぎYangzaを発ち、午後1：30 Pokhala着、午後は休養。夕食はAnnapurna Hotelでとる（1人7.5Rs）。再びホテル庭の石囲い沿いにワナ3個、トラバサミ1個、倉庫横にワナ2個をセット。コウモリわずかに飛ぶ。後山さんはインド人トラック運転手に薄型紳士時計（セイコー）、3年使用のものを200Rsで売る。日本で買ったときは13000円。また日立のトランジスタラジオ（7000円）を220Rsで売る。これは隊で買ったもので売値は半額3500円である。明日はいよいよカトマンズである。飛行機は座席の都合でカルマ、ザンブーの2人が先に飛び、後の便で我々7人が飛ぶことになった。しかし、出発時間は非常に不安定で、だいたいの時間がわかっているだけで、お客の有無によっても時間が変わるらしい。ここでは飛行機の荷物運賃が安いのは大助かりである。ネパール人も非常に大きな荷物を持って旅行するので、運賃が高くてはとても無理であろう。今日は40日ぶりくらいでヒゲを剃る。インド上陸以来伸び放題にしていたヒゲも、あまりにひどい顔になってきたので、顎の部分のヒゲのみを残して、全部剃ってしまい、さっぱりする。そり落とす前に後山さんに写真を撮ってもらう。今日はまた、歯冠がとれてしまい、ものをかむのがやや不便となる。今日は全く雨降らず、暑い。昨日と同じく、ワナ5個セット。何もとれず。

23（木）：Pokhala-Kathmandu. 朝9時発の飛行機で、カルマ、ザンブーの二人が先にカトマンズに飛び、我々も次の飛行機（10時頃）で飛ぶことになったが、飛行機の到着までは、次の飛行機が何時出発になるかわからず、切符も南方上空に飛行機が見えるまで発売しない有様である。結局3時過ぎになって、やっと飛行機（DC-3）がパイロワから飛来し、4時過ぎに出発した。この飛行機は来るときと異なって、席は胴体の両側に長いチェアが2列に並んでいるだけで、中央に細長く荷物を積み上げ、全く輸送機並みである。今日は空の状態が悪く、少し揺れたので、乗客の一部には吐いたものもいたようである。ボロをまとったTibetan 2人が乗っているのもネパールらしい風景。ネパールでは飛行機はバス並みということがはっきりするような情景であった。飛行機の待ち時間がたっぷりあったので、今日はAnnapurna Hotelの庭で、隊員相互で床屋を開業。久万田＝松村、松村＝後山、正富＝阿部というふうに互いに髪を刈り合った。後山さんはこの情景を写真に収める。昼食は再びTibetan 食堂で焼きそばとギョウザをとったが、この料理はAnnapurna Hotelのものよりずっとうまい。料金はまたずっと安いので、ポカラでものを買うときはここにするのが最も良い。夕方カトマンズに着き、タクシーとジープに分乗してGarden Innにつく。渡辺君はすでにGosainkundに行き、帰ってきており、色々状況を聞く。Gosainkundでは湖に氷が張っており、雪が降ったので大変寒かったという。我々にも衣類を相当用意していく必要があるらしい。夜は荷物を整理。

24（金）：Kathmandu. 今日は一日採集品の整理を行う。哺乳類の標本のラベル書きだけで一日を終わる。昼過ぎ久万田さんと半ズボンの注文に行く。生地が綿で12.75Rs、仕立代4Rsだという。明日4時仕上がり。一日中30℃位の晴天。カトマンズはまだほとんど雨が降らないらしく、街はひどく乾燥して、ほこりがものすごい。

25（土）：Kathmandu. 今日は午前中貝類の標本整理。午後は手紙書きで終わる。今日も一日中天気は良く31℃位。朝食後、下痢ぎみであったのでエマフォルム3錠をのむと、下痢も治まったようである。Garden Innの庭に白いサギがきたので、カラー、白黒で写真を撮る。Garden Innに訪れる鳥の種類は大変少なく、Redbent bulbul, robin, ヤツガシラ, spotted owl, スズメなどを見るくらいである。Brush treeの花が終わっているのと、繁殖期に入ったことが原因であろう。夕食は渡辺君の作った天ぷらで舌鼓をうつ。夜、昨年札幌に来たマニクが訪れ、札幌で借りた金（10000円）を返したいので借りたときの交換レート7.65Rsと現在の10.0Rgとどちらでも決めてくれと言う。結局9Rs:1ドルでもらうことにする。Garden Innにワナ3個をかける。

26（日）：Kathmandu. Garden Innにて *Suncus* 1<sup>(74)</sup> を採集。（ヒキガエル1）。今日は手紙書き（動物教室、博物館、自宅宛）。明日からのGosainkund旅行の準備をする。手紙を出しに行ったついでに土産物店により、バッファロー

(71) *S. murinus* ジャコウネズミ ♂【57286】および ♀【57287】。

(72) *M. cervicolor* クチバハツカネズミ ♂【57343】。

(73) *R. rattus* クマネズミ ♂【57532】。

(74) *S. murinus* ジャコウネズミ ♀【57288】。

の角製ククリのペーパーナイフ 7 個を買う、1 個 5Rs。夜 Garden Inn 上空を中型コウモリ、flying fox などが多数飛び、捕虫網で捕獲を試みたが失敗。夜 10 時頃から Kathmandu の高級レストラン Indira ヘビールを飲みに行く。インド製 Golden Lion をのむ。なかなかうまいビールである。

27 (月) : Kathmandu-Trisuli. 今日からいよいよ Gosainkund 2 週間の旅である。バスを借り切り、朝 8 時頃迎えに来るという約束で契約したのが、実際に来たのはなんと 12 時頃、それから荷物積、バス事務所でのごたごたなどで、結局 Kathmandu を出発したのは午後 1 時頃であった。その後も所々で停まっては長い時間休んでゆくので、全くやりきれない。Trisuli の入り口のチェックポストで、パッキングした我々の箱を開くことでカルマと若い警官とがトラブルを起こし、結局全部の荷物を開けて見せることになってしまった。最初は 3 個だけ開けと言われたという。カルマ、ラクパが警察署に行き、署長に説明し、やっと放免。これでまた 1 時間以上時間を取られ、今日は Trisuli Bazar から上へ歩くことが不可能となったので、バザール横の川辺でキャンプ。こちらは標高 600m で大変暑く、夕方 6 時頃で 34℃、湿度 23%。しかし雷が鳴り、ほんの少しパラパラと雨が降った。どうも我々は雨を持ってきたらしい。2 週間前、渡辺君が同じコースを歩いたときは、全く雨が降らなかったという。ワナかけず。

28 (火) : Trisuli-Ramche. 朝 6 時朝食、6 : 30 Trisuli 出発。出発前、キャンプ地のマンゴーの木に採食にきた Hoarybellied Himalayan squirrel 1 頭<sup>(75)</sup> を空気銃で採集。キャンプ地横のマンゴーの木立では、これ以外に 5 頭ほど同じ種類のリスが盛んに採食しており、6:30-7:00 まで観察、撮影。この時、小型のフクロウ 2 羽を見る。(Kathmandu の Garden Inn で採集のものと同じか?)。ここを出発すると Trisuli River 沿いに上流に登る。途中は耕地が多く、水田地帯である。1 時間くらい歩いたところから斜面にかかり、これから耕地および Quercus (枝が切られてない直立した木ばかり) の林などのある斜面を上下しながらトラバースし、少しずつ標高を上げる。途中は耕地が多く、林は少ないので大変暑い。33-34℃。Bonuwa という 2-3 軒の部落の近くのボダイジュの下で昼食。ここで小型ウグイス sp と Yellow-rumped sunbird の一種を空気銃で採集。ここを 12 : 30 出発、その後も同ような段々畑の耕地のある斜面(トウモロコシ畑、高さ 1-1.5m) を上下しながらトラバースし、Ramche という 2-3 軒の部落(1650m) でキャンプ。ここは 45 度くらいの急斜面で、大きな岩がごろごろしたところで、やはり耕作しており、すべてトウモロコシ(1-2m) 畑である。この畑の周辺の岩の下にワナ 15 個セット(中 1 個は人家横)。Bonuwa で 2 頭の Rhesus monkey を見る。

29 (水) : Ramche-Bokajhunda. 昨日のワナの中、人家横にかけたワナで Mus の尾 1 がとれたのみ。6 : 30 出発。昨日と同じく Trisuli 川左岸の 40 度くらいの斜面をトラバースしながら、Dunche の方に北上する。大部分耕作地で木なし。一部に所々少し木のあるところがあり、そのようなところでは鳥が多い。Thale (2000m) の少し南の小さな林にて正富さんが Common Langur 3 頭を見る。Thare で昼食。その後もほぼ同ような斜面を北上する。所々に林が現れ、その一つの広葉樹林にて昨日 Trisuli で採集したのと同じリスを 1 頭<sup>(76)</sup> 採集。ここでサビアの 1 種を採集。Dunche の 2 マイルほど南の斜面林中(Bokajhunda, 2000m) でキャンプ。近くのハンノキ林(下に湿ったところあり、一部水が流れる。また林床には Rubus のブッシュがところどころにあり、その他草本は水牛に食われほとんど無し。ブッシュ中の落葉 4-5cm、土適度に湿る) にワナ 35 セット、他にシャクナゲその他の林中の溪流沿い、岩の下、縁、Rubus やイラクサのブッシュにワナ 10 個セット。夜コウモリ一度飛ぶ。雨降らず。

30 (木) : Bokajhunda-Dunche 東。Dunche 南、キャンプ地、シャクナゲその他の広葉樹林中の溪流沿いにて Soriculus 3<sup>(77)</sup>、ハンノキ林にて Soriculus 1<sup>(78)</sup>、アカネズミ様マウス 1<sup>(79)</sup> 採集。今日は午前中に Dunche を通過、check post でパスポートを見せ、10 時頃 Dunche から少し東方(Gosainkund 寄り)の川辺(1970m) に到着、ここでキャンプ。付近一帯は広葉樹林。川辺石の下にワナセット。比較的乾燥、下草少なし、シダー一部にあり。河岸段丘上の麦畑縁にて Suncus etruscus と思われる小型のネズミの死体<sup>(80)</sup> を拾得。Dunche 付近はコムギの収穫に入ったところ。雨パラパラ程度。今日は銃で赤い finch、青いヒタキ、バブラーなどを採集。

(75) *Callosciurus pygerythrus* イラワジリス ♀【57595】。

(76) *Dremomys lokriah* アカハラカオナガリス ♀【57601】。前日採集したイラワジリスとは別種である。

(77) *S. nigrescens* チビオケムリトガリネズミ ♂【57146】および ♀【57145】、【57147】、【57148】が同日採集標本。後掲注(78)の 1 個体が含まれる。

(78) 前掲注(77) 参照。

(79) *N. fulvescens* ヒマラヤクリゲネズミ ♀【57443】。

(80) *Suncus etruscus* コビトジャコウネズミ【57266】。

31 (金): Dunche 東. 溪流沿い、ハンノキ林、岩の間にかけたワナにて *Soriculus* 6<sup>(81)</sup>、アカネズミ様マウス 2<sup>(82)</sup>、同幼体? 2<sup>(83)</sup>。今日は停滞日。午前中に標本作製。午後鳥採集。ゴジュウカラ、バブラー、赤褐色の鳥(頭黒)などを採集。夕方雷雨があり、かなりの雨量がある。溪流沿いシダのブッシュ(湿)にワナ 8 個セット、林内落葉(5cm)中にワナ 7 個、川沿い、竹、小灌木疎生、岩の間にワナ 19 個セット。キャンプ地近くの広葉樹林にて後山さんがテン 2 頭を見る。昼食にコウリヤンのザンバとイラクサスープ(緑色)を食べたが、みんなほとんど食欲がわからない。

6月1日(土): Dunche 東—Shin Gomba. 川沿いの竹、小灌木疎生地、岩の間にアカネズミ様マウス 1<sup>(84)</sup>、*Soriculus* 1<sup>(85)</sup>を採集。朝 6 時出発。Shin Gomba に向かう。キャンプ地からすぐ 45 度くらいの登りとなり同じような登りの連続。キャンプ地の少し上 2000m くらいのところの川沿いの広葉樹林にて Common Langur の約 10 頭の群れを見る。正富さんはこの上(2100m)でテンを見る。その後しばらく登るとゴヨウマツが現れ、次いで大きな木が少なくなってトゲのある灌木林となる。この付近には小鳥が多い。この上の方はウバメガシ様のカシ、シャクナゲの喬木林となる。このカシ、シャクナゲ林(2650m)で Hoary-bellied Himalayan squirrel 2 頭を見、そのうち 1 頭<sup>(86)</sup>採集。同様の林が 3000m くらいまで続き、その 2800m 付近にて同様のリス 6 頭を見、中 1 頭<sup>(87)</sup>採集(いずれも空気銃にて)。この付近の林中でナキウサギ? の声を聞く。3000m 近くでも同じリスを 2 頭見る。その後シャクナゲ(小灌木、小型のピンクの花)のブッシュとなり、ここにはプリムラ、ランなどの花が多い。この灌木林を過ぎると針葉樹喬木林となり、その林に入るとすぐ、山焼きした開けたところに出る。これがキャンプ地の Shin Gomba 3200m。昼ころから雨が降り始め、夕方まで小雨が降り続ける。キャンプ地の焼き払ったところの斜面、溪流沿い、竹疎生、小灌木疎生地(被度 50%、密度小、落葉なし、湿)にワナ 40 個セット。またシャクナゲ(高さ 5-6m)疎林(下草なし、乾)にワナ 11 個セット。人家石積横にワナ 8 個セット。焼け跡地にて大型のキジ♀(ヒナ連れ)を見る。

2日(日): Shin Gomba. 今日是一日小雨が降り続き、夕方にあがる。焼け跡地の溪流沿いにて *Soriculus* 大 1<sup>(88)</sup>、小 1<sup>(89)</sup>、vole 3<sup>(90)</sup>、アカネズミ様マウス 3<sup>(91)</sup>、シャクナゲ林にてアカネズミ様マウス 1<sup>(92)</sup>、*Mus* 1<sup>(93)</sup>、石造人家縁にて *Rattus* 1<sup>(94)</sup>採集。新たに溪流沿いに 16 個、ヤナギ様小灌木林に 15 個、石造人家外側及び中に 10 個のワナセット。今日一日寒く、朝の最低気温 4℃。今日の最高気温 13℃。昼ころから Gosainkund の山々に雪が降る。カラ、キバシリなどを採集。夜はキャンプファイアーを囲んでボーダー達によるコーラスを聴く。正富さんがテープにとってその場で聞かせてくれる。ザンブーは歌がうまい。楽しい夜であった。4 日月が出て星がきれいである。

3日(月): Shin Gomba-Gosainkund. 焼け跡地の溪流沿いにて *Soriculus* 小型種 2<sup>(95)</sup>(pitfall 1)、同属の新しい中型種 1<sup>(96)</sup>、vole 3<sup>(97)</sup>、アカネズミ様マウス 2<sup>(98)</sup>、マメ科灌木林にて *Soriculus* 大型種 1<sup>(99)</sup>、*Mus* 1<sup>(100)</sup>採集。6:30 出発。朝から小雨が降り続き、一日中しよぼしよぼとイヤな雨である。針葉樹林をすぎ、花満開のシャクナゲ林の斜

(81) *S. nigrescens* チビオケムリトガリネズミ ♂【57149】、【57154】および ♀【57150】、【57151】、【57152】、【57153】。

(82) *N. fulvescens* ヒマラヤクリゲネズミ ♀【57437】、【57438】。

(83) *N. fulvescens* ヒマラヤクリゲネズミ ♀【57435】、【57436】。

(84) *N. fulvescens* ヒマラヤクリゲネズミ。この個体はネパールに寄贈。

(85) *S. nigrescens* チビオケムリトガリネズミ ♂【57155】。

(86) *D. lokriah* アカハラカオナガリス ♂【57602】。

(87) *D. lokriah* アカハラカオナガリス ♀【57603】。

(88) *S. nigrescens* チビオケムリトガリネズミ ♂【57156】。

(89) *E. caudatus* ホジソンケムリトガリネズミ ♂【57078】。

(90) *N. sikimensis* シッキムハタネズミ ♂【57570】および ♀【57571】、【57572】。

(91) *N. eha* ハイバラクリゲネズミ ♂【57398】および ♀【57399】、【57400】が同日採集標本。後掲注(92)も同一種と考えられることから 4 点が同日採集標本となる。1 点はネパールに寄贈。

(92) 前掲注(91)参照。

(93) *M. cervicolor* クチバハツカネズミ ♀【57344】。

(94) *R. pyctoris* トルキスタンクマネズミ ♂【57495】。

(95) *E. caudatus* ホジソンケムリトガリネズミ ♂【57080】および ♀【57079】。

(96) *Episoriculus leucops* ネパールケムリトガリネズミ ♀【57126】。

(97) *N. sikimensis* シッキムハタネズミ ♂【57573】、【57574】および ♀【57575】。

面にはいるが、高所の影響がひどく 5-10m 歩く毎に一休みしないと全く歩けない。シャクナゲ林では大型のクロクリ、プリムラの類が開花して大変きれいであったが、しょぼしょぼ雨が降るし、息切れがして、全く写真など撮る気にならない。シャクナゲ林を過ぎ草原になるとカルカが現れる。これを過ぎると、植物のほとんどない岩山となり、ますます苦しい登りである。数歩進む毎に休んで呼吸を整えないと動けない。小さなピークを越える毎に、また同じようなピークが現れ、いつまで歩いても Gosainkund につかないのでうんざりする。寝不足と空腹で疲れ果てる。この頃から雨はみぞれとなり、次いで雪となる。ついに小さな峠に着き、そこを下り始めるとザンブーが昼食を持って迎えに来る。雪が降り続ける急斜面なのでここでチャパティーは食べず、紅茶だけ一杯のみ、元気をつけて歩き、約 30 分後に Gosainkund (4300m) の湖畔の小屋に到着 (1 時 30 分)。昼食はこの小屋で食べることにしていたのだが、こんなに遅くなりたくたである。昼食後、後山、久万田、山田の 3 氏が高山病となる。山田先生が最もひどく夕食食べず。湖畔沿いの岩場にワナ 20 個、カルカ横及び岩の下に 15 個セット。夕方 1.5℃。小屋に着く直前、イワヒバリを撃ったが疲れていて弾が全くあたらず、午後 1 羽採集。夕方、松村君カルカ横にてナキウサギ 1 頭<sup>(101)</sup> 採集。

4 日 (火) : Gosainkund. 朝、最低気温 -0.3℃。積雪 (新雪) 6cm。今日の最高 8℃。一面の雪でワナの回収に苦労する。湖畔にて vole 1<sup>(102)</sup>、カルカ横の岩場にて vole 4<sup>(103)</sup>、Soriculus 小型種 1<sup>(104)</sup> 採集。午前中、小屋裏の岩場でナキウサギ 2 (松村 1、阿部 1)<sup>(105)</sup> 採集。このナキウサギは全く啼かない。昨日も今日も全く啼いたのを聞かない。今日は時々陽がさし、その時は比較的暖かく、雪はほとんど解けた。久万田、後山両氏の高山病はかなり良くなり、正常に行動できるようになったが、山田先生は一日中寝たきりで食欲もほとんどない。Gosainkund について元気だったのは松村、正富、阿部のみ。3 人は食欲旺盛。しかし、少し早く歩いたりすると猛烈な頭痛がするので行動はゆっくりする必要がある。急激に動くと酸素不足となって供給が間に合わず、一酸化炭素中毒と同様の症状となるのだと思われる。今日は一日ほとんど標本作製に時間を取られ、ナキウサギの観察もほとんどできず。カルカ横斜面の岩の間 (草少し、コケ、地衣多) にワナ 20 個セット。他に pitfall 1 個セット。斜面には雪があって (写真) 植物としては小型の Primura 3 種、チョウノスケソウ sp (最多)、リュウキンカ 1 種、キンポウゲ 1 種、ウスユキソウ 2 種、マメ科 1 種、エンゴサクなどで、貧弱。岩の崩壊が今でも起こっており、岩場には植物が少なく、コケモモに似たツル植物が多く、スゲも少々ある。

5 日 (水) : Gosainkund-Tale Pati. カルカ横斜面の岩場ではネズミ類全くとれず。昨夜は比較的よく晴れていたせいらしい。朝 6:00 出発、Gosainkund の山の雪道を上り、4520m の尾根を越えるころ、天気は大変良く、ガネッシュヒマールが北西方向に遠望できた。峠を越えると雪はかなり深くなり、深いところでは膝が没するほどであった。この下りは大変急斜面で、雪上にはナキウサギ、キツネの足跡が多数見られた。4200m くらいのところが雪線で、その下にはアルプが開け、カルカの跡らしいものがある。ここでルリ色の奇妙な鳥の群れを見つけ、♂ 1、♀ 2 を採集。ここでは嘴の赤いカラス 2 羽を見る。ここを過ぎ更に急斜面を下るとトゲのある小灌木が現れ、次いでヒノキ様の小さな樹木が現れる。この頃から雨が降り始める。これを更に下り、約 3700m まで下りたところに滝があり、これから再び登ったり下ったり大変長いトラバースをする。12 時頃、雨の中で昼食。久万田、後山両氏は再びひどい頭痛に悩まされ、セデスをのんで痛みをとめ、歩く。これ以後も斜面をトラバースする長い道で、途中シャクナゲ喬木林に入るところから雨量が一段と激しくなる。この付近はよく雨が降って湿度が高いらしく、一面にコケが繁茂し地衣も多い。同様な長い斜面の路を歩き、シャクナゲ林の中の路を再び登ると林はまばらとなり、コケの繁茂した岩場に出て、そこで林はきれる。ここから草原となって大きなカルカが多数現れ、今日のキャンプ地 Tale Pati (3500m) である。斜面下部シャクナゲ林縁、コケの繁茂した岩場付近でナキウサギ (幼体?) 1 頭<sup>(106)</sup> パチンコで採集。同

(98) *N. eha* ハイバラクリゲネズミ ♂【57401】、【57402】。

(99) *S. nigrescens* チビオケムリトガリネズミ ♂【57157】。

(100) *M. cervicolor* クチバハツカネズミ ♀【57345】。

(101) *Ochotona macrotis* オオミナキウサギ ♀【57628】。

(102) *N. sikimensis* シッキムハタネズミ ♂【57576】、【57578】および ♀【57577】、【57579】の 4 個体が同日採集標本。後掲注 (103) を含めた 5 点が同日に採集されているが、1 点はネパールに寄贈。

(103) 前掲注 (102) 参照。

(104) *E. caudatus* ホジソンケムリトガリネズミ ♂【57081】。

(105) *O. roylei* ヒマラヤナキウサギ ♀【57606】、【57607】。

(106) *O. roylei* ヒマラヤナキウサギ ♂【57608】。

じところにワナ 21 個セット。カルカの石積沿いに 5 個セット。夜に雨上がる。

6 日 (木) : Tale Pati. 早朝小雨降るがその後晴れる。カルカ内にかけたパチンコでナキウサギ 1<sup>(107)</sup> 採集、外側にかけたワナで *Soriculus* 小型 1<sup>(108)</sup> 採集。シャクナゲ林縁、溝沿い (下草なく、一面コケ繁茂) でも *Soriculus* 小型 1<sup>(109)</sup> 採集。朝、カルカに棲んでいるナキウサギ幼体 1 頭<sup>(110)</sup> を空気銃で採集。午前中、近くの岩場 (幅 15m、長さ 50m) でナキウサギを観察。ここには少なくとも ad.3、juv.2 (カルカ付近で採集したものよりやや大) が見られた。午前中約 3 時間、午後 3 時間観察したが、どのナキウサギも一度も鳴かず、空気銃を撃っても警戒声さえ発しなかった。午後と同じところで銃による採集を行い、♂ ad.1<sup>(111)</sup>、♀ ad.1<sup>(112)</sup> を採集。他にもう一頭大型の赤い個体を撃ったが岩の間に逃げ込まれ捕獲できなかった。他の岩場で ad. ♂ 1 頭<sup>(113)</sup> を採集。ヒマラヤのナキウサギは鳴くかどうか疑問。Ulleri で採集した個体が 2~3 回鳴いたのみ。午後 1:30 ころから雨が降り、夕方に上がる。シャクナゲ林縁、溝沿いにワナ 21 個、カルカ付近に 5 個セット。今日は全員気分良好。みんな眼が腫れた顔をしている。原因不明。夜、カルカの中で標本作製。

7 日 (金) : Tale Pati-Kurumsan. 久しぶりの良い天気で、キャンプ地から Gosainkund の山々がよく見える。カルカにて vole 1<sup>(114)</sup> 採集。ナキウサギを 2 頭銃で撃ったが、胴部を撃ったため、2 頭とも岩の間に逃げられ、採集不能。ナキウサギの写真を撮る。2 日でナキウサギ 15 頭ほどを目撃したが、そのうち 7 頭が幼体であった。その後、Tale Pati からの下り、標高 3300m くらいのシャクナゲ林内路上でナキウサギ 1 頭<sup>(115)</sup> を捕虫網で採集。いずれも一度も鳴いたものはない。8:00 みんなよりおくれて Tale Pati を出発。3500m ほどのところのシャクナゲ林上縁にて尾が長く赤い sunbird ♂ 1 羽を銃で採集。シャクナゲ林 (上部には開花中のもの多し) を下ると、下部では湿度が高くなるため木の肌にコケが一面に着生しており、そのような林のすぐ下から引き続いて高さ 20-30m もあるカシ林となり、ここでも木にはコケが一面に着生している。カシ林が始まると人家が現れ、牧草地が開ける。このカシ林中は湿度が高く、広葉灌木 (ミズキ sp. ガマズミ sp. など) が密生し、その中は陰湿で、落葉層、コケ層が厚く、ネズミ、食虫類の生息地として好適な場所である。この林中にてヤマムスメの写真を撮る。今日は 3180m の初めての人家の近くで昼食。ヤマムスメを見る。カシ林を下った 2500m のかなり開けたところ (人家あり、収穫中の小麦畑、ジャガイモ畑あり) Kurumsan でキャンプ。キャンプ地は尾根の上で、東斜面はコムギ、ジャガイモ畑で、西斜面にはカシ林があり、その周辺部に広葉灌木林 (ミズキ sp. ガマズミ sp. ネジキなど 5-10m、下にシダ、マムシグサなどがあり、落葉層 5cm またはコケ層 5-7cm あり、陰湿) があり、その下部は牧草地が開けている。この広葉灌木林中にワナ 40 個セット。夜小雨降る。

8 日 (土) : Kurumsan. 早朝パラパラ降雨。広葉灌木林にて *Soriculus* 大 9<sup>(116)</sup>、*Mus* 1<sup>(117)</sup> (食われ頭骨のみ)、腹白 *Rattus* 2<sup>(118)</sup> 採集。良い天気で標本がよく乾燥した。今日まで毎日雨で、温度が低かったので、ほとんど乾燥していなかったが、今日の好天でようやく乾かすことができた。今日の停滞日は、今回の旅行初めてのゆっくりした日であった。夕方及び夜にかなり強い雨がいった。広葉灌木林中にワナ 40 個、人家横に 5 個セット。

9 日 (日) : Kurumsan-Patibanjan. 広葉灌木林にて *Mus* 1<sup>(119)</sup>、腹白 *Rattus* 1<sup>(120)</sup>、人家横石垣 (ジャガイモ畑) にて

(107) 注 (107), (110), (111), (113) の 4 個体は *O. roylei* ヒマラヤナキウサギ ♂ 【57610】、【57611】、【57612】、【57613】のいずれかに該当する。

(108) *E. caudatus* ホジソンケムリトガリネズミ ♂ 【57082】。後掲注 (109) を含めた 2 点が同日採集だが、1 点はネパールに寄贈。

(109) 前掲注 (108) 参照。

(110) 前掲注 (107) 参照。

(111) 前掲注 (107) 参照。

(112) *O. roylei* ヒマラヤナキウサギ ♀ 【57609】。

(113) 前掲注 (107) 参照。

(114) *N. sikimensis* シツキムハタネズミ ♀ 【57580】。

(115) *O. roylei* ヒマラヤナキウサギ ♀ 【57614】。

(116) *S. nigrescens* チビオケムリトガリネズミ ♂ 【57158】、【57159】、【57160】、【57161】、【57165】、【57166】および ♀ 【57162】、【57163】、【57164】。

(117) *M. cervicolor* クチバハツカネズミ ♀ 【57346】。

(118) *N. fulvescens* ヒマラヤクリゲネズミ ♂ 【57444】および ♀ 【57445】。

Suncus 1<sup>(121)</sup> 採集。Kurumsan のキャンプ地を 7:00 出発。キャンプ地のすぐ下方にも、上方と同様のカシ林がある。林中はコケが一面に繁茂し、灌木が多く陰湿な良い林である。ここを過ぎると農耕地のある尾根道となり、一度下がった後、木のない尾根道を何回も何回も上下しながら進み、やはりキャンプ地と同じ 2500m の尾根上で昼食。ここで雨に遭い、その後も同様の尾根道を上下しながら Patibanjan に 3 時頃到着、キャンプ。ここに入る少し前に Tiger trap が道の真ん中に仕掛けられてあるのを観察、撮影。Patibanjan には check post があるが check なし。寺の庭にキャンプ、1820m。周りの斜面はすべて耕地で、横には広葉樹喬木林が少し残っており、その中に小川が流れている。この溪流沿いにワナ 20 個セット（低木少なく、草もほとんどなく落葉も少なし）。ここにもリス（採集したもの）2 頭がおり、営巣している。巣は 2 個あり、一つは広葉樹の高さ 12-3m、他の一つは谷川を挟んで約 20m はなれたところにあり、高さはほぼ同じ。Kurumsan キャンプ地から下りてくる途中 2500m 付近のカシ林にて正富さんがリス 1 頭<sup>(122)</sup> 採集。種類は同じ。

10 日（月）：Patibanjan-Kathmandu. Patibanjan キャンプ地より上に登り、農耕地が続く山を越え、下りになると林に入る。木は 10-15m 以下で小さいが、湿度が高く、コケが生えている。やがて山を下って麓に近づくと、川沿いの道になり、小沢が多くよい広葉樹林となる。これを抜けると再び部落になり、ここを下ると上水道貯水池（Sundarijar に近い）で、ここで昼食。その後トラックをチャーターしようとしたができなかったので、シープをチャーターした。しかし、バス横転の交通事故で進めず、カトマンズ平野の農耕地の中の道を歩き、カトマンズに近くなったところでタクシーを拾い、これで Garden Inn に帰る。Patibanjan では人家横で Mus 2<sup>(123)</sup> を採集。Sundarijar でも松村君が路上で Mus の子 1 頭<sup>(124)</sup> を採集。Sundarijar から 3-4 時間うへの森林は大変よく、生物採集には良いところである。川辺でキャンプするのが良い。Sundarijar までは車で行けるので午前中に良い林まで行ける。

11 日（火）：Kathmandu. 午前中は休養。天気が良くなく、湿度が高いので、標本が乾かなくて困る。午後はラベル書きで終わる。夜はザンブー、アンチェリンの解雇前に街で夕食を取る、Garden Inn のウメの実をゴシキチョウが食いに來るのでカスミ網を張り 1 羽採集。

12 日（水）：Kathmandu. カスミ網にて Shortnosed fruit bat 1 頭<sup>(125)</sup> 採集。今日も天気はあまり良くなかったが、雨はパラパラ程度の小雨。今日一日は全く何もせず、昼から Boudnath Stupa（大仏像）を見物。夜、三脚を 230Rs で、時計も 200Rs で売る。Boudnath Stupa の周りには Tibetan の土産物屋があり、仏像、Tibetan の銅板の暦、銀製品など多数の品が店頭で見られたが、これという、気の利いた土産物がなく、結局何も買わず。久万田、後山氏は色々買ったようである。ザンブーとアンチェリンは我々に別れを告げてナムチェへ帰る。

13 日（木）：Kathmandu. 今日一日雨がなく、比較的天気が良かったので頭骨標本を乾燥。一日中休養でほとんど何もせずに過ごした。後山、松村隊員はネパール人を案内にしてバドガオンの先 5 マイルのところまで祭りに見に行ったが、行ったときはすでに祭りが終わっており、腐った顔をして帰ってきた。帰りにバドガオンに立ちよった由。午後は採集した全種の Soriculus の頭骨の肉はがしを行ったが、Shingomba で採集した中型 Soriculus は種名不明。珍品らしいことがわかる。

14 日（金）：Kathmandu. 今日ほとんど何もせず。一日中天気は良くない。頭骨標本を数個体作成したのみ。夜は日本人、柴田氏の家に松沢氏、宮原氏夫妻、隊員が招かれてビールをご馳走になった。帰ったのは 11 時過ぎ。

15 日（土）：Kathmandu—Godavari. 朝 8 時車で Godavari に向かう。渡辺、後山はカトマンズに留まる。Godavari では前と同じ寺の前でキャンプ。チョウはだいぶ少なくなっているが、種類はやや異なったものがとれるようになっている。キシタアゲハは多くなっており、カルマが 2 頭採集。前に来たときはまだ木の葉が少なかったが、今回はすっかり茂り、湿度が高く、ヒルが多い。黒と白の大型セキレイ、大型カッコウの一種を採集。夜は寺の前の池の上を中型と小型のコウモリが多数飛んだが、そのうち、小型のもの 2 頭<sup>(126)</sup> を捕虫網で採集。Pokhara で採集した一種と

(119) *M. cervicolor* クチバハツカネズミ ♀【57347】.

(120) *N. fulvescens* ヒマラヤクリゲネズミ ♂【57446】

(121) *S. murinus* ジャコウネズミ ♀【57289】.

(122) *D. lokriah* アカハラカオナガリス ♀【57604】.

(123) *M. cervicolor* クチバハツカネズミ ♂【57348】、【57349】.

(124) *M. cervicolor* クチバハツカネズミ ♂【57350】.

(125) *C. sphinx* コバナフルーツコウモリ ♀【57634】.

(126) *M. siligorensis* ヒマラヤホオヒゲコウモリ ♀【57639】および *Myotis csorbai* クソルバホオヒゲコウモリ ♂【57638】. こ

同じものである。広葉樹林の灌木の上（高さ 1.5m）に簡単な巣（広葉）を作って、その中にいる *Rattus* sp（尾長い）を発見。空気銃で撃ったが逃げられた。この広葉樹灌木林（疎林、湿度大、落葉層は木の下のみ 3-5cm）にワナ 20 個セット。午後はずっと雨が降り続く。

16 日（日）：Godavari. ネズミ全くとれず。午前中は比較的天気良く、松村君は Botanical Garden でキシタアゲハ 5 頭その他多数を採集。午前中天気が良かったにもかかわらず、疲れが出て眠くて仕方なく、10 時頃まで睡眠。その後、コウモリの標本作製。午後は久万田さんと共に Godavari の中腹まで登る。山田、正富、松村隊員は夕方、迎えにきた車でカトマンズに帰る。夕方、谷川の上にはったカスミ網で小型コウモリ（昨夜採集のものと同種）1 頭<sup>(127)</sup> 採集。今日はカケス、黒白の大型セキレイ、Fire-breasted flower-peckerなどを採集。林縁、寺の周囲の石垣沿いにワナ 10 個セット。林床は開け、落葉少なし。

17 日（月）：Godavari-Kathmandu. カスミ網にてキクガシラコウモリ 2 頭<sup>(128)</sup> 採集。ネズミワナ 0。午前中 Royal Botanical Garden にてチョウ採集。キシタアゲハ、アオスジアゲハなどを取る。午後、雨で出られず。夕方 5 時、迎えに来たジープでカトマンズに帰る、

18 日（火）：Kathmandu. 頭骨標本 10 個体を作ったのみ。夕方、空気銃でカラスを採集。夜は宮原氏夫妻、松沢氏、柴田氏、シェルパ 3 人を交えてジンギスカン鍋を行う。雨なし。

19 日（水）：Kathmandu. 午後、パタン、ジャワラキールのチベタンの民芸品売り場見物。バッグ 25Rs、ヤクのぬいぐるみ 8Rs を買う。その後 Tribuvan 大学の動物学講師、Majupurian 氏の家へお茶に招待され、山田、久万田、正富隊員と共に伺う。教授の Singh 氏と共に歓談。

20 日（木）：Kathmandu. 夜、シェルパがチャンをご馳走してくれたが、後山、久万田、松村、阿部と、庭のプラムを食べ過ぎたものか、腹をこわして下痢しているので、せっかくのチャンもわずかししか飲めず。

21 日（金）：Kathmandu. 朝 5 時、山田、後山、渡辺隊員、帰路につき、空港から飛行機でカルカッタに飛ぶ。山田先生は Bombay へ、後山さんは 22 日の飛行機で東京へ。渡辺君は 26 日の船で日本へ向かう。3 人が帰ったので部屋が一度に静かになる。明朝は松村君が Lhakpa と共にナムチェへ発つのでますます静かになることだろう。腹の調子悪く食欲なし。

22 日（土）：Kathmandu. 松村君、今日ナムチェへ発つ予定であったが、下痢がひどく出発を延期。午後街へ買い物に行き、ククリ（ネパールのなた）二つを買う。いずれも水牛の角のサヤで 25Rs と 32Rs。夕方 Balaju River 河畔のブッシュへ Weasel trap 2 個をかける。Balaju River は増水していて、ほとんど川幅一杯に水が流れ（濁流）、岸の一部が削り取られている。松村、久万田、正富、阿部、シェルパ全員が腹の調子を悪くしている。小生は昨日よりは食欲がでてきたが、まだ調子は良くない。夜は手紙書きをする（安部、太田、中村、阿部近一、森信也、阿部明土、桂田）

23 日（日）：Kathmandu. Balaju River bank のトラバサミ捕獲 0。午後はずっと手紙書きで終わる。全部で 22 通、絵葉書を出す。

24 日（月）：Kathmandu-Terai, Adabar. 朝 10 時出発、Terai へ行く。久万田、正富、阿部、Karma の 4 人ジープに乗り、6 時間半の旅行。午後 4：30 Terai のジャングル中の Adabar（300m）着。途中の農耕地や山の斜面はすっかり緑が濃くなり、新緑である。途中、シワリーク山脈の峠付近から雨となり、ひどいガスに包まれた。テライも木の葉が出そろって新緑であり、最初にここを通った時の乾燥し、落葉した、明るい林とは様相が一変している。しかし、林内は相変わらず開けて歩きやすい。下草は禾本科のチガヤに似た、しかしチガヤよりは大型のカヤが多い。落葉はほとんどなし。雨期に入りはじめの感じで、土地の人でもまだ雨期ではないという。涸沢はあるが水のある川がなく、大雨があると一度にどっと水が出るらしく、最近も大量の水が流れた跡がある、

25 日（火）：Adabar. 今日是一日ほとんど雨が降り続け、雨期に入った感じである。一時はひどい大雨となった。シロチョウの仲間が多く、採集。キャンプ地には水道水（地下水？）が絶えず噴出しており、これが小さな水流となって林内を流れている。しかし水流の横にも特別に草本が多いわけではなく、疎である。この水流付近にワナ 5 個、その他林縁（小灌木あり、被度 100%、密度小、落葉なし、乾）に 15 個セット。朝キャンプ地にてシカ 1 頭見る。

---

の標本は 2013 年まで *M. siligorensis* ヒマラヤホオヒゲコウモリと同定されていた。

(127) *M. siligorensis* ヒマラヤホオヒゲコウモリ ♀【57640】。

(128) *Rhinolophus rouxi* ルーキクガシラコウモリ ♂【57650】および ♀【57649】。標本の採集日は前日の 16 日となっている。

また、シマリス (Five-striped palm squirrel, *Funambulus pennanti*) 1 頭<sup>(129)</sup> 採集。このリスは森林内にもいるが、林縁に多く、ちょうど繁殖前と見えて盛んに鳴きあい、一本の木に 3-4 頭もいることがある。シマリスに似た生活をすらしく、地上にもしばしば下りるほか、逃げるときは木から下りて地上を走ることが多い。

26 日 (水) : Adabar. 林縁部材木 (丸太) 置き場付近のワナにて *Suncus* 1<sup>(130)</sup>、*Rattus* sp (腹灰白) 1<sup>(131)</sup>、*Indian mole rat* (*Bandicota bengalensis*) 1<sup>(132)</sup> を採集。この材木置き場の付近には水たまりがあり、草が生え茂っている (被度 100%、密度大、湿度適)。Mole rat は穴を掘っている。また、森林内にも方々に土を盛り上げたところがあり、Mole rat の棲んでいると思われる跡がみられる。今日は全く雨なし。腹の調子は相変わらず良くなく、特に昼食にチャパティを食べたのが良くなかったらしく、腹にガスがたまって食欲なし。正富さんも同様に、ほとんど食欲なく、久万田さんは風邪で夜、高熱に悩まされ、ほとんど一日中寝たきり。全く病人部隊みたいである。食事後には正露丸、三共胃薬、ビタミンなどをのみ続けているが一向に治る気配がない。林縁の丸太置き場にワナ 20 個セット。

27 日 (木) : Adabar. *Bandicota* 1<sup>(133)</sup>、*Suncus* 2<sup>(134)</sup>、*Mus* 1<sup>(135)</sup> 採集。林縁にて Five-striped palm squirrel 2 頭<sup>(136)</sup> 採集。今日も全く雨降らず。しかしやや風があったので比較的涼しかった。林内にはシカ道があり、新しい足跡が多数見られた。正富さんは Chital らしい白斑のある角をもったシカを見る。またジャコウネコらしい足跡も多く、正富さんは 1 頭目撃。正富さんの腹の調子は相変わらず、久万田さんはペニシリンを飲んでかなり良くなる。阿部は昼食後テトラリザールをのんだ後は腹の張りがなくなる。夜もテトラリザールをのむ。森林内にはシカ道が多いが、これにトラバサミ 2 個セット。林内にて Common Langur 約 10 頭の群れ。青いカケス、オーチュウなど 7 羽採集。

28 日 (金) : Adabar—Kathmandu. トラバサミ 0。どうも胃腸の調子が良くないので 11 時ジープをチャーターしてカトマンズに帰る。ジープに乗り通して 6 時間、きわめて長い道のりである。カトマンズにつて、夜は Himalayan Restaurant に行ったが、食欲なく、うまい焼きめしもほんの少量手をつけたのみ。久万田さんのみ食欲あり。夜 12 時頃までかけて鳥の標本を作る。

29 日 (土) : Kathmandu. 正富さん、阿部とも胃の調子は良ならず、食欲ほとんどなし。朝は宮原さんからいただいたメザシでオカユを一杯食べ、昼はパンを 3 枚ばかり食べたが、夜は全く食欲なし。久万田さんのみ食欲旺盛。ビタミン、三共胃腸薬ファイナリンをのむ。今日は一日中寝て過ごした。

30 日 (日) : Kathmandu. 午前中は胃の調子が悪く、寝て過ごしたが、朝から飲み始めたビストカインが効き始めたのか、午後は比較的調子が良くなり、荷物の整理を行う。夜はインスタントラーメンを作ったが、食欲も出て気分良好となる。

7 月 1 日 (月) : Kathmandu. やや胃の調子も良くなったが、頭骨標本を 10 個ばかり作ったので再び悪化。しかしビストカインは比較的よくきき食欲はかなりある。夜 10 時頃ラーメンを作って食べる。

2 日 (火) : Kathmandu (Balaju). 食欲はあるが胃がもたれた感じ。今日は午前中標本の整理。種類毎にまとめる。ネズミ 8 種、食虫類 6 種、ナキウサギ 1 種、リス 3 種。ネズミの種類が意外と少ない。ネズミ類はネパールで今までに 17-18 種は記録されているので少なすぎる感じである。Terai その他でももう少し採集する必要がある。しかし、小型食虫類は意外と多かった。いくつかは新記録のものが含まれている模様。夕方 Balaju River bank へトラバサミ 2 個、ハコワナ 5 個をセット。夜、街の床屋で頭を刈ってもら (散髪と後のひげそりだけで 2Rs)。

3 日 (水) : Kathmandu (Balaju). Balaju River bank にて *Bandicota indica* 1<sup>(137)</sup>、*Suncus* 1<sup>(138)</sup> 採集。午前 10 時～午後 3 時、Tribvan 大学に行き、図書館で J. Bombay Nat. Hist. Soc. の一部を複写しようと思ったが、最近の 2 volumes しかないのであきらめる。図書館は立派な建物で、大学も丘の上にあつて構内は広々としており、きわめて良い環境である。

---

(129) *Funambulus pennant* キタシマヤシリス ♂ 【57596】 .

(130) *S. murinus* ジャコウネズミ ♂ 【57290】 .

(131) *R. rattus* クマネズミ ♂ 【57533】 .

(132) *Bandicota bengalensis* コオニネズミ ♀ 【57559】 .

(133) *B. bengalensis* コオニネズミ ♂ 【57560】 .

(134) *S. murinus* ジャコウネズミ ♂ 【57292】 および ♀ 【57291】 .

(135) *M. cervicolor* クチバハツカネズミ ♂ 【57351】 .

(136) *F. pennant* キタシマヤシリス ♂ 【57597】 , 【57598】 . ただし 【57598】 に付属する採集日は翌日の 28 日になっている .

(137) *B. indica* オニネズミ ♀ 【57564】 .

(138) *S. murinus* ジャコウネズミ ♂ 【57293】 .

現在まだ建設中で、広い敷地にポツポツと各セクションが立っている。Majupuria 講師に会う。

4日(木): Kathmandu (Balaju) . Balaju River bank では *Suncus* 1<sup>(139)</sup> のみ。Bandicota の穴は径 9 x 8cm、10 x 8cm ほどで、所々に径 40cm ほどの皿形のくぼんだ広場(休み場らしい)あり。また、Garden Inn の庭にて、家から塀の上を走り、近くのサボテンの一種の茂みに入った *Rattus* sp を目撃。このネズミはサボテンの上部(高さ約 3m、木性サボテンで、上部にスイカズラがからんで暗い茂みとなっている)でうずくまり休んでいた(昼前、晴天)ので、空気銃で撃ち落とす<sup>(140)</sup>。Godavari で木の上に巣を作っていたのと同種のネズミと思われる。今日は胃の調子も比較的良くなり、気分もやや良好。

5日(金): Kathmandu-Kuinibisona. 朝9時出発、ジープにて Sundarijar 上のシャクナゲ林に向かう。久万田、正富、阿部の3人で行く予定であったが、正富さんは下痢が再びひどくなったので同行を取りやめ、カトマンズ滞在。久万田、カルマ、阿部、ポーター2人、計5人で行く。10:30 Sundarijar 着、すぐ登りはじめ、11:00 貯水池に着き昼食。12:30 ころ出発して久万田、阿部が先行したが途中で道を間違え、まっすぐ上に登って尾根道に出る。それで再び引き返して右の方へ登ったが、カルマたちはすでにかなり林内深くまで入っており、1890m の Namote Khola 河畔で、やや開けたところにある Kuinibisona でキャンプ。川沿いのシャクナゲ、カシなどの広葉樹林内にパチンコ 35 個、箱ワナ 5 個をセット。林内は湿度高く、落葉は比較的少なく、部分的に 5cm くらい。下草は大型の マムシグサ sp、小灌木が疎生、林内は密度小。

6日(土): Kuinibisona. 川沿い広葉樹林にて *Mus* sp 1<sup>(141)</sup>、アカネズミ様腹白 *Rattus* 1<sup>(142)</sup>、*Soriculus nigrescens* 5<sup>(143)</sup> を採集。また小さな溪流にて午前 7:30 頃、顔を洗いに行つて *Chimarrogale platycephala himalayica* 1 頭<sup>(144)</sup> を発見、手づかみで採集。この付近には Namote Khola に注ぐ小溪流が多数あり、これらはカワネズミの生息地として好適な溪流である。午後は大雨あり、ヤマムスメ 1 羽、のどの白いツグミ sp 1 羽を採集。この付近の林は 5 ~ 15m であまり高くないが、木の種類はきわめて多く(常緑広葉樹のみ)、何の林と言ふことができないほどである。低木、草は比較的少なく、落葉も少ない。湿度高く、木には一面にコケ、ランなどが着生、地面にはコケ少なし。午後大雨で、Namote Khola は増水し、濁流となったが、カワネズミのとれた溪流は全く濁らず、大雨の前と同じく清流である。水量の増加も少なし。

7日(日): Kuinibisona-Kathmandu. 川沿い、常緑広葉樹林にて *Rattus* sp 1<sup>(145)</sup>、*Suncus* 1<sup>(146)</sup>、*Soriculus nigrescens* 1<sup>(147)</sup>、*Chimarrogale* 1<sup>(148)</sup> 採集。この広葉樹林には Namote Khola にそぐ小溪流が多数あるが、これらの各溪流には 1 ~ 2 頭のカワネズミが棲んでいるようである。午後 1 時キャンプ地(1890m)を出発、下山。4:00 Sundarijar よりジープでカトマンズに帰ったが、4:00 頃から大雨となり、夜もずっと降り続ける。川島(阿部実家)よりはがき受け取る。

8日(月): Kathmandu. 今日一日中元氣よく、雨全くなし。午後ジャワラキールのチベタン土産物市場に行き、マット 2、バッグ 3 を買う。マットは一つ 63Rs、バッグは 25Rs。Garden Inn の庭に大きな穴(幅 8 x 高さ 6.5cm)を発見トラバサミセット。

9日(火): Kathmandu. Garden Inn の庭にかけたトラバサミにて *Bandicota indica* の♂ 1 頭<sup>(149)</sup> 採集。午前中標本作製。午後久万田さんと共にカトマンズ市内西北部の丘の上にある Swayambhu Nath Temple に行く。ここは Rhesus monkey が多く、ボダイジュの実に多数集まっていた。♀は子を連れているものが多い。この寺からカトマンズ市内が一望の下に見ることができる。寺に登る階段の横の木の穴(上向き)に Magpie Robin が巣を作っており、若いヒナ 3 羽が見られた。

(139) *S. murinus* ジャコウネズミ ♀【57294】。

(140) この個体はネパールに寄贈されている。

(141) *M. cervicolor* クチバハツカネズミ ♂【57352】。

(142) *N. fulvescens* ヒマラヤクリゲネズミ ♀【57447】。

(143) *S. nigrescens* チビオケムリトガリネズミ ♂【57168】、【57169】、【57170】および ♀【57167】。

(144) *Chimarrogale himalayica* ヒマラヤカワネズミ ♀【57323】。目録の採集年次 1975 年は 1965 年の誤りである。

(145) *Rattus nitidus* ヒマラヤクマネズミ ♀【57515】。

(146) *S. murinus* ジャコウネズミ ♂【57295】。

(147) *S. nigrescens* チビオケムリトガリネズミ ♂【57171】。

(148) *C. himalayica* ヒマラヤカワネズミ ♂【57324】。目録の採集年次 1975 年は 1965 年の誤りである。

(149) *B. indica* オニネズミ ♂【57565】。

10 日 (水) : Kathmandu. 早朝からひどい下痢が再び始まり、午前中たびたび便所に通った。朝からテトラリザールを飲み始めたので昼頃から下痢は治まり、午後からはひどく空腹となって食欲も出てきた。しかしほとんど一日寝て過ごさざるを得なかった。

11 日 (木) : Kathmandu. 久万田さんは今日から再び Godavari へ 1 泊の採集。そのタクシーで小生はパタンまで行きジャワラキールに立ち寄り、絨毯を物色したが適当なのがありません、高価のため買うのをよした。その足でパタンの街まで行き、小型のククリ 6 本を買う。最初 1 本 20Rs といったが結局 18Rs に値切る。お面も 2 枚買い、バスでカトマンズに戻る。アッサンのククリ屋で水牛の角のサヤのついた小型ククリ 2 本を買う (1 本 14Rs)。これでだいぶ土産物がそろったが、まだ大物が残っており、頭を悩ます。あと、石をはめ込んだシシの像 2 個くらいとネックレスを買いだと思えたがルビーが足りず、明日ドルを換金して買うことにした。今日はずっとテトラリザールをのんでいるせいか腹の調子は良いが、下痢が治まると、今度は便秘が始まったらしい。先日来腹を悪くしてから、下痢か、さもないと便秘で、全くおかしい腹具合である。しかし食欲は結構あり、夜は正富さんと Everest Restaurant で Mixed Tanmen を食べたが、全部平らげた。また、夜食にビスケットを食べたが食欲だけは旺盛で少し心配なくらいである。

12 日 (金) : Kathmandu. 腹の具合も良くなり、今日は一日土産物買いに歩き回り、シシ 2 個 (1 個 45Rs)、トルコ石 1 個 (45Rs) を買う。シシは防疫協会と川島、石は玲子のペンダント用。これでネパールでの買い物を終わり、やっと安心する。昼過ぎに久万田さんがカルマと共に Godavari から帰る。夜は夕食後 Indira Restaurant へ行ってビールを飲む。土産物店で電池 8 本、懐中電灯 1 個、22Rs で売る。

13 日 (土) : Kathmandu. いよいよネパール最後の日となる。ほとんど何もしないうちに一日が過ぎる。午前中、教室 (エアログラム)、松井、竹田津両氏に絵葉書を出す。午後久万田さんとネパールの古い切手を買に行く。ネパール最古の 1886 年発行の 6 枚セット (10Rs) を 2 組買い、またブータンの first issue 切手 2 枚を買う。いずれも卓、裕への土産である。夜は宮原氏夫妻の招待で King's Way 北方の Pease Restaurant に行き、シナ料理をご馳走になる。

14 日 (日) : Kathmandu-Raxaul. 復路、同行する正富さんと共に朝 7 時のバスでカトマンズ出発、しょぼしょぼと雨が降って全くイヤな朝である。久万田さんはテライまで採集に行くため同行。バスは郵便局の近くの Kings Way から出発、郊外のチェックポストでパスポートを見せ、更に途中のチェックポストではバスの上の荷物を見せろというので、わざわざ下ろして開く。開いてほんのちょっとと見ただけで OK。全くこれくらいのことで面倒なチェックをするのはやりきれない。金銀類の持ち出しをチェックしているのだと言うが、全くイヤなチェックである。シワリークの山を越える頃から天気は良くなり、テライ側はからりと晴れた暑い天気である。テライの Adavar で久万田さん達と別れ、テライの平野部に出ると、これから帰るんだという実感がわいてきた。山道を走っている間は、まだどこかへ採集に出かけているような感じがであった。3:30 Birganj 着。タムタムに乗って通関、出国手続きを終わり、インド側に入る。といってもネパール側では一度税関でパスポートを見せただけであとは全く何も書くこともなく、タムタムに乗ったまま通り過ぎて終わり、全くあっけない。インド側に入ってもパスポートを見せ、カメラの値段だけを聞かれただけで OK。そのまま Raxaul の駅に入り。Retiering room をリザーブ。2 人で 7.5Rs。ベッドが二つあり、シャワー、トイレ付きで、この前に泊まったこの Tourist lodge よりずっと良い。飯を食べようと思って Raxaul の街に出たがレストランは全くなく、町の人に聞いてもないらしい。仕方なくビスケットを 3 袋 (1 個 90 パイサ) 買い。二人で食べる。夜はたびたび電気が消えてどうにもならないので、8 時頃から寝る。ファンを泊めると蒸し暑く寝苦しいが、疲れていたのでぐっすり寝る。街ではバナナ、マンゴーが売られており、バナナは一房 10 本ついたものが 1.4Rs で、カトマンズよりずっと安く、半分くらいの値段である。マンゴーが最も多い。

15 日 (月) : Raxaul-Samastipur-Calcutta. 7 時頃起床、外はかなり雨が降っている。朝食は駅の食堂からとれるというのでパン、オムレツ、茶をとる。一人 1.95Rs。食器を取りに来たボーイにボールペン 1 本をやると、にこにこして帰って行った。ところが昼食を頼むと、別のボーイが来て、前のボーイと同じように、まず机の上にあったボールペンを見て、これは日本製かと聞くので、そうだと答えると、いくらするかと尋ねた。前のボーイにはここで 1 本やったわけだが、二回目のボーイにはここで「もうないよ」というと、すごすごと引き上げていった。そして食器を引き上げに来て、支払い (マトンカレーライス付きで一人 2.3Rs) を終わってもまだもぞもぞしていたので、ふたのなくなったバルサン repellent のチューブをやるとボールペンはないかと尋ねてきた。しかし、ないといって追い返した。11:45 Raxaul 発 (北側路線廻り) 1 等室に乗る (Howrah まで 64.2Rs)。車中では 1 等切符を持たないものは乗せないように気をつけていたが、ホームと反対側の入り口から乗り込んできたり、中には 1 等室がすいているので、切符も持たないで自転車を持ち込もうとしたのがいたのには、こちらがあっけにとられた次第。追い出す。途

中、裏から乗り込んだやつ2人のうちの1人に、custom officer だというのがいてパスポートを見せるだの、荷物の箱を開けろだといってイチャモンをつけてきたが、箱を開けてみせ、ネズミの標本の箱を開け、中の小箱を開けると、もう結構といって、しめて良いという。そのうち近くの駅で降りていったが、全く何のことはない、やつ目の保養をさせたようなものであった。退屈紛れにイチャモンをつけて、さんざん何とかかんとか言いがかりをつけ、なにがしかをせしめようとしたのであるが、こちらもうなれたもので、適当にあしらってやった。その後年配の警官が2人乗ってきたが、そのうち1人が、しばらくして英語で話しかけてきて、日本のこと、ネパールのこと、インドのことなど、お決まりのことを聞いていたが、なかなか良い人間で、インド人にありがちなずうずうしさがなく、色々親切にアドバイスしてくれたり、茶を取ってくれたりした。しかし、3人分の茶代 1R はこちらが払ったのだが、それでも払ってしまった後、自分が払うからと言っていた。この間、マンゴーを買ったが、大変うまい大きなマンゴー 3個が 1R であった。この警官とは乗換駅の Samastipur まで一緒であった。Samastipur には定刻の pm8:40 につく。すぐ次の pm10:15 発 22 Down の一等寝台 2 berth を予約。ちようどうまく予約できる。ホームで出発を待っているとき、巨大なコウロギが電灯に飛来したので採集。ここで夕食、マトンカレーと紅茶をとったが、非常に辛くてとても食べられず、ライスだけ平らげる (1人 2.45Rs)。ここではバナナ (モンキーバナナだが比較的大) 一房 12本を 1R で買った。インドまで来るとバナナやマンゴーが非常に安く、カトマンズに比べると 1/3-1/4 の値段である。寝台の係の車掌にボールペン 1本をやると俄然愛想が良くなり、われわれの berth は上下段になっていたが下段二つを使って良いという。荷物を運んだポーター 3人が 5Rs を要求したが 3Rs を払って追い返し、夕食を運んだボーイは 1Rs の boxes を要求したが 35paises をやって追い返し。こちらもう手慣れたもので、こちらがやりたいと思った額以上はやらなくなった。列車は定刻 PM10:15 発車。車中はファンをフルに回しているが涼しくない。

16日(火): Culcutta (Hawrah) . 昨夜はずっと蒸し暑く、着ているものが汗でぐっしょりとなっていた。車窓から見る平野は雨期のため方々の川が氾濫しており、方々に水たまりができていのが見えた。田植えは一部で終わり、多くは代掻き中。am10:40 Hawrah 駅に到着(定刻)。まずポーターに荷物を運ばせてクロークルームに荷物を預ける。ポーター 3人は 25Rs を要求したが、4Rs をやって追い払う。その後まず新和海運の丸山さんに電話をしようと正富さんが何回も電話をしたが、事務所の方でも家の方でも捕まえることができず、もたもたしている中に夕方 5時近くになった。そこで Lytton Hotel を予約しようと思って電話をしたがうまくつながらず、別のところへつながってしまう。駅の公衆電話はいずれも壊れたものばかりで使えるものがわずかしかない。また、うまく使えないのでインド人達は電話をぼんぼんたたくので余計壊れるらしい。仕方なく、タクシーで直接 Lytton Hotel へ向かう。メーター付きで、駅から 2.7Rs で行った。別のタクシーは最初 10Rs で行ってやると言っていたところである。ホテルではすぐ部屋が取れたが非常に大きな部屋で、これは非常に高いだろうと思っていると、案の定 55Rs だという。ただし 2人分で 55Rs であることがわかる。夕食前に Cambridge 書店へ Fauna of India を探しに行ったが、これはなく、鳥類関係の本が多数見られた。The birds of the World, The birds in the sun, The birds in my Indian garden, etc.

17日(水): Culcutta. 午前 10時過ぎ、Indian Museum に行き Director に会い、動物の標本を見たいというと案内人をつけてくれ、動物の Gallery を見せてくれる。展示はボンベイの博物館と似たようなものである。動物では特に面白いものなし。考古学的資料が多いらしいが見なかった。その後、Dr Biswas に会い、色々話を聞いた後、Mr Saha に案内されて近くの別の建物にある Zoological Survey の動物の研究室に行き、持参した標本類を同定しようと思ったが、室員が多数集まって標本をひねくりまわし、ああでもないこうでもないと言いながら、午後 2時頃までひねくり回したが、結局はっきりしたものはなく、Apodemus flavicollis gorkha らしいのが grey mouse であることが標本を比較してわかった。また食虫類も Soriculus caudatus の標本を比較して間違いなさしいことがわかったのみ。後のものは全くわからず、Ellerman の本を見ながら色々やっていたが、genus さえすぐわかるものがないのには全くあきれた。昼食をしなければならぬからと言って 2時少し前にここを出て、すぐ隣の Lytton Hotel に帰り、昼食をとる。その後 Park Street にある Oxford 書店にいき Butterflies of the Indian Region (28Rs) を買う。インドで印刷した本は大変安い。書店にはどこにも鳥の本が非常に多いのが目につく。そして一般書に混じって鳥の本が置いてある。夕方ホテルに帰ると、客が混んできたので小さな部屋に移ってくれといい、ほんとに小さな、本来は一人部屋にベッドを追加して押し込まれる。穴蔵みたいところで、カビくさいが冷房はついている。ただし、冷房については no charge でよいという。先に入っていた部屋が非常に大きな良い部屋で、中が 2部屋になりベッドが 4つもあったので少々良すぎたのかも知れない。

18日(木): Culcutta. 今日は再び Zoological Survey に行き、ネズミ類の標本の同定を行う。10時~13時 30分までかけて、ああでもないこうでもないと言いながら所蔵標本と比較しながら、5種ばかりの同定を行ったが、もう

一度確認の必要がある。Agrawal 氏をはじめ、ここにいる人たちは非常な splitter らしく、Tupaia の毛の変異など、全く問題にならないような小さな変異を問題にしながら、研究しているが、研究の内容は低調であり面白いものはないように思われた。Agrawal 氏の論文をいくつかもらい、Ellerman の Fauna of India vol. III Pt. 1 & 2. Rodentia (Rs 46) を購入。午後は本屋を見て歩く。

19 日 (金) : Culcutta. 早朝 6 : 00 ~ 8 : 30 まで動物園を見学。園内には木が多く、池などもあってなかなか環境は良く、また野生のウヤサギのコロニーがあって営巣中であった。シカ類はただ囲いを作った状態のところ放たれ、それと一緒にツルの類、その他が多数混じって入っている。ツルの一種は営巣、抱卵中であった。オオコウモリのコロニーも見られたし、園内には Five-striped squirrel がきわめて多く、いたるところでちょろちょろしているのが見られた。また、その他野生の鳥類 (ハゲワシ、myna、カラス、berbet など) が多数棲んでいて、動物園としては大変良いと思われた。朝食後 Museum に行き、正富さんが文献複写。小生も Ann. Mag. N.H. や Culcutta J. N. H. などの文献を複写するため、鳥類部門の Saha 氏に本をそろえてもらったが、時間がなくて午後來ることになる。10 時頃ホテルをチェックアウトして、丸山さんのところに駆け込んだので、ちょうどこちらに来ておられた水谷さん、丸山さん、山下造船の人らに昼食をご馳走になり、ホテルの中華料理を食べに行く。その後再び博物館へ行って複写を行い、Dr Biswas に会ってお礼を言い、別れる。Dr Biswas、その下の Mr Saha 氏には大変お世話になった。その後再び本屋に行き、色々探したが新しい本は見つからない。夜は水谷さん、丸山さんらにつれられて裏町の見学に行く。非常にごみごみしていて汚いところであった。売春宿などもここでは公然と営業しているらしい。その後丸山さんの部屋で 2 時頃までだべった後、椅子の上で寝る。蚊がいてなかなか眠れず、ほんの 2-3 時間しか眠れなかった。

20 日 (土) : Culcutta-Waltair. 再び胃の調子が悪く、異常発酵しているらしい。午前午後と本屋をまわった程度で、ぶらぶらして過ごした。18:10 Culcutta 発 Madras Mail に乗り Waltair に向かう。この汽車は比較的きれいで、便所、シャワーなども比較的清潔であった。

21 日 (日) : Waltair. 12 : 30 Waltair 着、すぐタクシーで New Japan House に向かったが、ここでは誰もいないので休ませてもらう。そのうち、小木島さんと加藤さんが帰り、宿泊をお願いする。駅では外まで荷物を運ばせるのにポーターがずるくて荷物を 1 個しか持たず、また 20Rs を要求して、さんざん頑張ったが結局 5Rs しかやらす。こちらが強気に出るに限る。New Japan House は丘の上にあり、景色も良く高級住宅地にある。夜は近くのクラブでヨギの実演があるというので見に行く。久しぶりにご馳走にありつき日本の味を楽しむ。こちらはカルカッタより雨が少なく、気温もやや低くてしのぎよい。

22 日 (月) : Waltair-Madras. 14 : 30 の急行で Madras に向かう。今日は初めて III class に乗ってみたが思ったより混んでおらず、悪くない。しかし席が板のため尻が痛く、夜はなかなか眠れず。

23 日 (火) : Madras. 11 : 45 マドラス着、駅食堂で食事をして、Retiring Room を聞いてみたが全部予約済み。近くの簡易ホテルに部屋をとり、街を見物。マドラスは木が多く、あまりごみごみしてなくて良い街である。メインストリートの Mount Road はなかなかきれいなところである。土産物店もこの通りにあり、数軒回ったがゾウの彫り物などは他の町に比べるとかなり安いようであった。本屋には大したものなし。

24 日 (水) : Madras-. 午前中海岸や市内南部の Deer Sanctury を見て、昼過ぎ Mount Road に帰る。ゾウ、プレートなどの土産物を買ったが、全部で 220Rs 余となり、少々予定オーバー、残りの Rs がさびしくなる。夜 9 : 10 発の Hawrah mail、3 等に乗ったが上の berth は席取屋がすでに全部を先取りしてタオルを敷いており、仕方なく下の席に座っていると、ポリスが来てそれらのタオルを持ち去り、うまく席が取れた。

25 日 (木) : Waltair. 汽車は berth がとれて眠ってはきたものの板敷きのため足腰が痛い。13 : 25 Waltair 着、駅食堂で昼食後、タクシーで New Japan House に向かう。力車の方は 4Rs で行けることがわかったので、タクシーの方は 5Rs で行くといい、タクシーに乗る。しかし New Japan House につくと 1 人 5Rs だとごねたので怒鳴りつけて追い払う。船は明日夜半に入るらしいと言う。

26 日 (金) : Waltair. 朝 Mookerjee のところへ行ってみると船の入港はまだよくわからないので明朝電話するという。一日船待ち。

27 日 (土) : Waltair. 朝 9 時過ぎ船入港、昼頃着岸。しかし土曜のため今日は乗船できず。午後船 (鉄洋丸) まで行って船長に挨拶を済ませる。話に聞いていたとおり、船長はトゲのあるものの言いかたをする。頭の切れる自信家で、極端な合理主義者の様に見受けられた。会社にとってはドル箱船長かも知れないが人間的にはあまり興味を持てなかった。今夜もまた New Japan House でお世話になる。

28 日 (日) : Waltair. 10 時頃港に行き、通関を終わり船に乗る。昼食は船でしたが、久しぶりの日本食。やはり格

段にうまい。特に米のうまいのには改めて感心。ネパールの米はまだ食べられたが、インドの米は全くどうにもならない。水っぽくて味がなく、全く食べる気がしなかった。しばらく熟睡していなかったので船に乗ってすぐ眠った。乗船して落ち着いたのでよく眠れた。

29日(月):Waltair. 今日一日中寝てばかりであった。ここ数日間(カルカッタのホテル以来)充分眠っていなかったもので食事時間以外はずっと眠り続けであった。

30日(火):Waltair. 朝10:23 出航。港を出るとすぐ、かなり揺れはじめたのでベッドに横たわったきりで週刊誌を読んで過ごした。

31日(水):船中. 一日中船は揺れ通しのため、食事の時以外は一日中ベッドの中。正富さんは全く食事できず。

8月1日(木):船中. 今日一日中船が揺れ、ほとんどベッドの中。夕方にはやや揺れかたが少なくなり、正富さんも食事をする。

2日(金):船中. 海は静かになり、ほとんど船も揺れず、インドで買った本を読んで過ごす。

3日(土):船中. 一日中週刊誌その他の読書で過ごす。

4日(日):船中. Fauna of India によって採集標本を少し調べたが Rattus の仲間で腹の汚白色またはグレーのものの中には少なくとも3種類あることがわかる。R. rattus subsp., R. nitidus, R. rattoides. また、Mus には M. cervicolor と M. booduga の2種があるらしいこともわかる。Microtus の種名は不明、どうもインド〜ビルマ地方からは未記録のものらしい。

5〜11日:船中生活.

12日:午後横浜沖にて検疫を終わり、君津港沖に投錨。今日は遅くなったので接岸できず。夕方、Costum Officer が乗船して通関。土産物のみチェック。

13日:午前9時接岸。しかし入国手続きなどをして正午頃上陸。すぐ木更津までタクシーをとばして荷物を送り、正富さんは車で東京へ、阿部はフェリーボートで川崎へ渡り、羽田に向かう。7:25の日航機にて札幌に帰る。

#### 隊員

山田真弓:無脊椎動物担当(北大理学部動物学教室)

正富広之:鳥類担当(専修大学美咲農工短期大学)(復路、阿部と同行)

阿部永:哺乳類担当(北大農学部応用動物学教室)

久万田敏夫:昆虫類担当(北大農学部昆虫学教室)

松村雄:昆虫類担当(北大理学部動物学教室)

渡辺真之:淡水藻類担当(北大理学部植物学教室)

後山一郎:撮影担当(北海道新聞社写真部)(往路、阿部と同行)

シェルパ

ラクパ(サーダー)

カルマ

ザンブー

アンツェリン

ミンマ

#### 関係文献

阿部永. 1971: 中央ネパールの自然環境. pp. 7-13, ヒマラヤの小哺乳類. pp. 14-25. ヒマラヤの動植物. 北海道大学中央ネパール生物調査隊報告. 北大ヒマラヤ委員会発行

Abe, H. 1971: Small mammals of central Nepal. J. Fac. Agr., Hokkaido Univ., Sapporo, 56 (4): 367-423, 2pls.

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 2013. 阿部永博士寄贈哺乳類標本目録. 北大植物園資料目録 7号, 札幌